明日のくらし、ささえあう

CO·OP共済

地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協働する活動を応援します —

2021年度 活動報告集

日本コープ共済生活協同組合連合会

はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）では、社会貢献活動として 2012 年度に「CO･OP共済　地域ささえあい助成」を開始し、2021 年度末をもって丸 10 年となりました。

2021 年度は 40 件のご応募をいただき、審査委員会において以下の選考基準のもと 34 団体、総額 21,149,612 円の助成を決定しました。その結果この 10 年間の総助成額は、約 2 億 1,700 万円となりました。

2012 年度よりスタートした本助成制度は、3 つのテーマ「①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」「②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」「③女性と子どもが生き生きする」に沿った活動を助成対象としてきました。スタートした 2012 年以降しばらくは 2011 年に発生した東日本大震災の復興支援の取り組みにも助成金をご活用いただきました。この 10 年間で少子高齢化や貧困等、くらしの困難は年々複雑化しています。解決のためには生協や団体、行政等が一緒に取り組むことが重要であると考え、本助成制度では生協と生協以外の団体がネットワークを形成しながら協働して取り組むことを大切にしてきました。この「協働」が、これからも大切にしていく本助成制度の特長です。

選考基準

①生協と地域の他団体との協働により成り立つ活動であること
②計画の実現性
③予算計画の妥当性
④対象者のニーズに基づく活動であること
⑤多様な地域住民の関わりや参加度
⑥活動の新規性や先駆性

※ 過去に助成を受けたことのある団体では、取り組みの発展性にも着目しました。
※ 協働の取り組みができているかという点では、他団体と協働することで新たな広がりが期待できるか、または、生協がしっかり役割を発揮できているかを着眼点としました。

2021 年度をふりかえって

長引くコロナ禍により、私たちの生活は数年前とはすっかり様変わりした感があります。「新しい生活様式」が浸透した 2021 年度も、感染者数が前年を大きく上回ったこともあり、活動によっては予定通り実施ができない、あるいは実施のタイミングを見極めるのが困難な場面があったことと思います。

とはいえ、生活に困窮する人や社会から孤立する人は増え続けており、フードバンク・フードドライブや子ども食堂（配食）の活動、ひとり親家庭や学生を支援する活動、居場所づくりの活動等へのニーズはさらに高まっているといえます。そのような活動への助成を通じて、人と人とがつながり、安心して暮らせる地域づくりに関わることができるのは、本助成制度にとっても大変意味のあることと考えます。

コロナ感染拡大の収束はまだ見通せず、社会的な影響はしばらく続くものと思われます。このような時こそ、あらためて「助け合い」「支え合い」の大切さを共有することが大切です。生協は組合員の声を聴き、共感を束ね、願いを形にすることができる組織です。SDGs（持続可能な開発目標）でもうたわれている「誰も取り残さない」社会の実現に向けて、生協と生協以外の団体が協働し、対面･非対面に関わらず人と人とのつながりを生み出しながら、地域を豊かにしていくことを期待しています。

10 周年の節目に……　さらなる発展を目指して

2021 年度は、本助成制度の開始から 10 年目となる節目の年です。2022 年度からは、さらに生協と生協以外の団体の協働を後押しできるような制度に改定をおこない、審査委員会も新たな体制となります。2022 年度はこれまでのあゆみを振り返りながら次の 10 年に向けて想いを新たにする年としています。本報告集 54 ページ～ 58 ページには、2022 年度より新たに審査委員長を務められる大阪大学大学院教授　斉藤弥生先生、歴代審査委員、本助成制度立ち上げ当時の事務局職員からの寄稿による特集記事が掲載されておりますので、ぜひあわせてお目通しください。

コープ共済連の社会貢献活動が、地域に根差した活動を促進する一助としてさらなる発展を遂げることを期待しています。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

2021 年度　CO･OP共済　地域ささえあい助成　審査委員会
委員長　上野谷　加代子（同志社大学　名誉教授）

「CO･OP共済地域ささえあい助成」10周年を迎えて

◆この「活動報告集」は助成金活用団体の活動を紹介するために、2012年度より毎年発行してまいりました。2022年3月をもって「地域ささえあい助成」は10周年の節目を迎えました。これを記念して本号において特集記事を掲載することといたしました。

今回掲載の特集記事は右図の第1弾～第3弾となります。特集記事①は、第1弾として本助成制度の誕生から10年間のあゆみをご紹介しています。特集記事②は、第2弾の「歴代の審査委員の皆様からのご寄稿」と第3弾の「10周年記念座談会」をまとめたものです。そして、本号の最終ページにもご案内を掲載しておりますが第4弾ではこれまで、本助成を受けて取り組まれた活動に参加された皆様から「エピソード作文」を募集します。入選者には賞状およびプレゼントの贈呈、CO･OP共済オフィシャルホームページと次年度発行の「2022年度活動報告集」への掲載を予定しております（第5弾）。また、今年はCO･OP共済ブランドキャラクター「コーすけ」誕生10周年でもあり第6弾の企画を用意しました。

「地域ささえあい助成」10周年記念企画

第1弾「誕生から10年間のあゆみ」～本号に掲載（特集記事①）
第2弾「歴代審査委員が振り返る10年間」～本号に掲載（特集記事②）
第3弾「歴代審査委員が振り返る10年間」10周年記念座談会～本号に掲載（特集記事②）
第4弾「地域ささえあい助成」10年間のエピソード作文募集
第5弾「地域ささえあい助成」10年間のエピソード作文入選者の発表～本誌次号、CO･OP共済オフィシャルホームページに掲載
第6弾「2022年度助成金活用団体への記念特典」
誕生10周年を迎える当会キャラクター「コーすけ」のノベルティ進呈

＜10周年に寄せて～歴代審査委員からのメッセージ～＞

★10周年おめでとうございます。6年間審査委員を務め、たくさんの貴重な経験をさせていただきありがとうございます。他団体と生協が共に取り組むことの難しさを実感する6年でしたが近年成功例も増えております。これまでの経験を活かしこれからも、地域ささえあい助成が、発展進化していくことを、心からお祈り申し上げます。

★全国で想いのある皆さんが様々な活動をされていることを知ることができ、励まされました。CO･OP共済の加入者やCO･OP共済にかかわる全国の職員に広く知ってもらって、「コープっていいな」「CO･OP共済に加入してよかったな」と思ってもらえたら！10年後はもっともっと活動が広がっていますように。

★この助成制度は、生協自身がより地域に目を向け、また地域の中での生協の役割発揮としてどのようなことができるのか、を考えるきっかけになったと思います。全国の生協の2020年ビジョンでは「地域づくりへの参加」を掲げました。地域ささえあい助成は、この柱を具体化していくのに一定の役割を果たしたと考えています。一方で、助成制度の周知・活用に地域的な偏りがあるのが残念な点です。これまでの成果や好事例を発信しながら、より多くの地域・生協でこの制度を活用していただけるような取り組みも強めていければ、と期待しています。

★地域ささえあい助成10周年おめでとうございます！
この助成により初めてつながった団体、また活動が次のステップにすすめたものがたくさんあると思います。
次の10年もさらにパワーアップして地域のつながりづくりを後押しし、いろんな形の輪をひろげていきたいですね。

歴代審査委員一覧（＊審査委員長）

氏名	年度	審査委員最終年度の委嘱時の役職
上野谷 加代子 様＊	2012～21年度	同志社大学 名誉教授
吉田 建治 様	2012～21年度	特定非営利活動法人 日本NPOセンター 事務局長
内澤 祥子 様	2012～15年度	いわて生活協同組合 副理事長
山内 明子 様	2012～14年度	日本生協連 執行役員 組織推進本部 本部長
小塚 和行 様	2012～14年度	コープ共済連 執行役員 総合マネジメント本部 本部長
近本 聡子 様	2015～21年度	公益財団法人 生協総合研究所 研究員
笹川 博子 様	2015～17年度	日本生協連 執行役員 組織推進本部 本部長
柳田 朗浩 様	2015～17年度	コープ共済連 総合マネジメント本部 本部長
松川 裕子 様	2016～21年度	生活協同組合コープあおもり 常任理事
二村 睦子 様	2018～21年度	日本生協連 常務執行役員 運営・組織担当 兼組織推進本部 本部長
梶浦 孝弘 様	2018～19年度	コープ共済連 執行役員 総合マネジメント本部 本部長
前田 かおり 様	2020～21年度	コープ共済連 総合マネジメント本部 本部長

この10年間、審査委員長の上野谷加代子先生をはじめ12名の方々に審査委員としてご尽力いただきました。ご多忙の中、多い年には80件を超える応募書類を一つ一つ丁寧に読み、真剣な論議により審査をおこなっていただきましたことに、心からの敬意を表し感謝を申し上げます。56・57ページ「歴代審査委員が振り返る10年間」には歴代審査委員の皆様の様々な思いが語られております。皆様のご尽力と想いを次につなげ、さらに本助成制度を発展させ地域共生社会の実現につなげていけるようすすめて参ります。
審査員をはじめ本制度を応援・ご協力くださった皆様に本誌の紙面を借り、御礼申し上げます。
10年間誠にありがとうございました。
心からの感謝を込めて

日本コープ共済生活協同組合連合会
代表理事理事長　和田　寿昭

目次

※（☆）マークはコロナ特別措置として、2020 年度から活動を継続して取り組んだ団体です。

「CO･OP 共済地域ささえあい助成」10 周年を迎えて …… 1
2021 年度「CO･OP 共済 地域ささえあい助成」助成先一覧 …… 4

活動報告集

テーマ1 くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

●生活協同組合コープ自然派兵庫
いのちとくらしの実行委員会 …… 8
●フードバンクしまね「あったか元気便」
学校給食のない時期に食と福祉情報を届ける「あったか元気便」 …… 9
●いいさよ～山梨
有償ボランティア・地域助け合い活動「いいさよ～山梨」 …… 10
●福井県民生活協同組合①
家族で楽しく学ぶ　防災・減災フェア …… 11
●しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト
シングルマザーから発信！地域の困りごとの解決方法を探るネットワークづくり …… 12
●一般社団法人シンママ大阪応援団
コロナ禍の中でシングルマザーと子どもたちのいのちとくらしをまもるスペシャルボックス事業 …… 13
●未来がきらり☆吹田学生応援プロジェクト実行委員会
コロナ禍において生活に影響が生じている市内在住在学の学生への食料品配布及び情報提供 …… 14
●東京保健生活協同組合
地域の医療保健の駆け込み寺 …… 15
●ほっかいどう若者応援プロジェクト
コロナ禍において困窮生活を強いられている学生（若者）への「食」や「情報」支援活動 …… 16
●特定非営利活動法人あしや NPO センター
WEB アプリを活用した地域資源の見える化による重層的支援体制の確立 …… 17
● BONBONCANDY にじいろじかん
【ドネーションをリデザイン】切り口を変えた寄付体験を一同に提供 …… 18
●生活協同組合コープこうべ（大庄元気むら）
大庄元気むらコープさんとこ …… 19
●生活協同組合コープぎふ
飛騨市北部（宮川町、河合町）から各地に、地域サロンの広がりをつくる …… 20
●生活協同組合パルシステム千葉
SDGs を活かした地域コミュニティづくり …… 21
●福井県民生活協同組合③
高齢者や認知症・障がい者にやさしい買い物環境の提供 …… 22
●生活協同組合おかやまコープ
平成 30 年西日本豪雨被災地支援活動～社協との連携を軸とした他団体との協同～ …… 23
●おたがいさま水戸（☆）
ボランティアによる生活支援活動 …… 24
●フードバンク奈良（☆）
フードバンク活動 …… 25

コーすけ誕生 10 周年記念特集 …… 26

テーマ2 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

●愛媛医療生協　共同農園「レインボーファーム」
「健康づくり」活動の輪が広がり、「地域に役立つ共同農園づくり」にステップアップしたい …… 28
●福井県民生活協同組合②
福井県協同組合連絡会　連携事業フードバンク・フードドライブ …… 29
●みやぎ生活協同組合
健康的な暮らしを創る担い手づくりと元気な高齢者を増やす取り組み …… 30
●津山アルツハイマーデー実行委員会
津山　世界アルツハイマーデー認知症理解・啓発活動 …… 31
●リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸
がん啓発イベント …… 32
●公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を
沖縄の文化を通して自信と自立を促すプロジェクトパート 2 …… 33
● NPO 法人 DV 対策センター
DV・虐待被害者及び母子家庭等貧困世帯への食とカウンセリングと教育の支援及び DV・虐待・貧困の連鎖を防止するための啓発講座の開催 …… 34
●生活協同組合パルシステム千葉（☆）
習志野市多世代が交流し、地域で子どもの育ちを支援する取り組み …… 35
●特定非営利活動法人　あなただけの乳がんではなく（☆）
乳がん啓発イベント、乳がん検診受診推進 …… 36

テーマ3 女性と子どもが生き生きする

●生活協同組合コープ自然派奈良
きゅうしょくカンガループロジェクト（給食を考えるプロジェクト）…… 38
●公益財団法人ふきのとう文庫
「すべての子どもに本の喜びを！」を伝える …… 39
●東吉野こどもと楽しむ会
多機能コミュニティスペース「つくばねっこ村」のコロナ対策強化でウィズコロナを乗り切ろう！ … 40
●生活協同組合コープぐんま
ほっこりんの子ども食堂「ほっこり食堂」…… 41
●シングルず（香芝市母子寡婦福祉会）
ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場 …… 42
●一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡
子どもの睡眠教育およびメディア依存防止のための木工工作教室の実施事業 …… 43
●がんばるもん実行委員会
学習支援。地域人材と学校と保護者を結ぶ。 …… 44
●殿川の活性化に取り組もう会
殿川資源を活用した自然体験を通した親子こどもアトリエや音楽教室・コミュニティースペースつくり … 45
●なのはな生活協同組合
こども食堂からべえ・地域で考えるこどもの貧困と安心できる街づくり …… 46
●宝塚ミライキャンパス
子育て世代の力で地域力アップ …… 47
● NPO 法人みやっこサポート
食で子ども達を守り、地域の未来を守るプロジェクト …… 48

地域ささえあい助成　フォローアップ（ヒアリング）実施しました …… 49
地域ささえあい助成　団体交流会　開催報告（オンライン） …… 50
地域ささえあい助成　募集のお知らせ …… 52
地域ささえあい助成　10 周年を迎えて特集① …… 54
地域ささえあい助成　10 周年を迎えて特集② …… 56
事務局からのお知らせ …… 58

2021年度 CO･OP共済 地域ささえあい助成 助成先一覧

※（☆）マークはコロナ特別措置として、2020年度から活動を継続して取り組んだ団体です。

1 くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

生活協同組合コープ自然派兵庫

【協働団体】
◎生活協同組合コープこうべ　◎フードバンク関西
◎市民デモ HYOGO　◎熟年者ユニオン

フードバンクしまね「あったか元気便」

【協働団体】
◎松江保健生活協同組合
◎島根県農業協同組合（本店）
◎島根県農業協同組合（くにびき地区本部）
◎生活協同組合しまね　◎グリーンコープ島根
◎島根県労働者福祉協議会　◎地域つながりセンター

いいさよ～山梨

【協働団体】
◎生活協同組合パルシステム山梨
◎フルーツ山梨農業協同組合
◎特定非営利活動法人ワーカーズコープ東京三多摩山梨事業本部

福井県民生活協同組合①

【協働団体】
◎福井県労働者福祉協議会
◎こくみん共済 coop 福井推進本部

しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト

【協働団体】
◎コープこうべ第5地区本部
◎NPO しんぐるまざあずふぉーらむ関西
◎一般社団法人日本子育て制度機構
◎NPO 福祉ネット星が丘

一般社団法人シンママ大阪応援団

【協働団体】
◎おおさかパルコープ　◎大阪よどがわ市民生協

未来がきらり☆吹田学生応援プロジェクト実行委員会

【協働団体】
◎大阪よどがわ市民生活協同組合
◎吹田市社会福祉協議会
◎吹田市社会福祉協議会施設連絡会

東京保健生活協同組合

【協働団体】
◎文京区社会福祉協議会　◎氷川下町会
◎文京サポート家族会

ほっかいどう若者応援プロジェクト

【協働団体】
◎連合北海道　◎北海道労働者福祉協議会
◎大学生協事業連合北海道地区
◎北海道生活協同組合連合会

特定非営利活動法人あしや NPO センター

【協働団体】
◎生活協同組合コープこうべ　◎芦屋市
◎芦屋市社会福祉協議会

BONBONCANDY にじいろじかん

【協働団体】
◎生活協同組合コープこうべ

生活協同組合コープこうべ（大庄元気むら）

【協働団体】
◎大庄ことはじめ　◎NPO 法人シンフォニー
◎尼崎市大庄南地域包括センター

生活協同組合コープぎふ

【協働団体】
◎よらまいかびぃず　◎ぴぃちくサロン会
◎社会福祉法人　飛騨市社会福祉協議会

生活協同組合パルシステム千葉

【協働団体】
◎フードバンクちば　◎ワーカーズコープちば
◎淑徳大学コミュニティ政策学部　消費者法研究室

福井県民生活協同組合③

【協働団体】
◎リンクワーカー樹の輪　◎小浜市社会福祉協議会

生活協同組合おかやまコープ

【協働団体】
◎倉敷市社会福祉協議会　◎総社市社会福祉協議会
◎総社市　◎真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

おたがいさま水戸（☆）

【協働団体】
◎いばらきコープ
◎茨城保健生協
◎NPO 法人ナルク水戸
◎パルシステム茨城 栃木
◎NPO 法人セカンドリーグ
◎水戸市社会福祉協議会

フードバンク奈良（☆）

【協働団体】
◎奈良県生活協同組合連合会
◎市民生活協同組合ならコープ

（16 団体）10,682,706 円 （☆）マークの団体を除く

② 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

愛媛医療生協　共同農園「レインボーファーム」

【協働団体】
◎愛媛医療生協
◎えひめ NPO311
◎三葉幼稚園
◎共同作業所「なかよし村」

福井県民生活協同組合②

【協働団体】
◎福井県協同組合連絡会（JA 福井県中央会）

みやぎ生活協同組合

【協働団体】
◎一般社団法人りぷらす

津山アルツハイマーデー実行委員会

【協働団体】
◎おかやまコープ美作エリア
◎津山市民生児童委員連合会
◎津山認知症の人と家族の会（おあしすの会）
◎オレンジカフェ　吉井川
◎加茂タクシー
◎みまさか認知症疾患医療センター
◎日本認知症グループホーム協会
◎認知症対応型通所介護事業所　じーちゃん・ばーちゃんのお家
◎津山信用金庫
◎臼井茶店
◎認知症キャラバン・メイト
◎美作大学生活科学部　社会福祉学科
◎学校法人美作学園　岡山県美作高等学校
◎協同組合　津山一番街
◎津山市役所　高齢介護課
◎津山市社会福祉協議会
◎津山市社会福祉協議会　津山市地域包括支援センター

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸

【協働団体】
◎生活協同組合コープこうべ

公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を

【協働団体】
◎生活協同組合コープおきなわ
◎社会医療法人敬愛会　中頭病院

NPO 法人 DV 対策センター

【協働団体】
◎東都生活協同組合

生活協同組合パルシステム千葉（☆）

【協働団体】
◎社会福祉法人八千代美香会ブレーメン習志野
◎ワーカーズコープちば

特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく（☆）

【協働団体】
◎生活協同組合コープかごしま
◎社会医療法人博愛会相良病院

（7 団体）4,454,013 円 （☆）マークの団体を除く

③ 女性と子どもが生き生きする

生活協同組合コープ自然派奈良

【協働団体】
◎農民運動奈良県連絡会（奈良県農民連）
◎奈良市の給食のおはなし

公益財団法人ふきのとう文庫

【協働団体】
◎コープさっぽろ

東吉野こどもと楽しむ会

【協働団体】
◎市民生活協同組合ならコープ
◎東吉野水力発電株式会社

生活協同組合コープぐんま

【協働団体】
◎ママボランティア　ほっこりん

シングルず（香芝市母子寡婦福祉会）

【協働団体】
◎市民生活協同組合ならコープ
◎香芝市社会福祉協議会

一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡

【協働団体】
◎エフコープ生活協同組合

がんばるもん実行委員会

【協働団体】
◎生活協同組合コープこうべ

殿川の活性化に取り組もう会

【協働団体】
◎市民生活協同組合ならコープ
◎殿川自治会
◎中竜門地区自治協議会

なのはな生活協同組合

【協働団体】
◎加良部地区社会福祉協議会
◎こども食堂からべえ運営委員会

宝塚ミライキャンパス

【協働団体】
◎コープこうべ　第１地区本部
◎宝塚市社会福祉協議会
◎宝塚市地域福祉課

NPO法人みやっこサポート

【協働団体】
◎生活協同組合コープこうべ　第２地区本部
◎コープ夙川
◎労災センター事業団　西宮事業所
◎特定非営利活動法人　なごみ

（11団体）6,012,893円　（☆）マークの団体を除く

総合計（34団体／応募：40団体）：21,149,612円

テーマ
1

くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

生活協同組合コープ自然派兵庫

活動名　いのちとくらしの実行委員会

活動のきっかけ

コープ自然派兵庫と市民活動団体で、子どもの貧困問題について取り組んだ上映会が協働の始まり。その後、開催した講演会のブース出展者として参加したフードバンク関西も加わり、2018 年度からいのちとくらしの映画祭実行委員会として活動しています。2019 年度からは、コープこうべも参画し、ブース出展者とのつながり・関りを深めています。

協働した団体

◎生活協同組合コープこうべ
◎フードバンク関西
◎市民デモ HYOGO
◎熟年者ユニオン

活動内容概要

今年も映画祭をメインに活動しました。映画は「ムヒカ　世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ」を上映し、上映後には、大阪府西成高校の山田校長に「子どもをエンパワする学校～西成高校の挑戦～希望を持てる社会へ」と題してご講演いただきました。会場には貧困問題に関わる活動団体のブース出展スペースを作り、休憩時間には情報交換や交流の場を作り、「誰もが希望を持てる社会へ」向けて活動しました。

他団体と協働することで発見したこと

映画祭・講演会開催に向けて、毎月実行委員会をおこないました。実行委員会では映画祭・講演会の準備に加え、毎回実行委員会の各団体の活動報告の時間を作りました。個々の団体の取り組みを知ることから、自分たちの団体に課せられる使命に気づき、刺激を受け、活動のヒントやモチベーションアップとなりました。

活動において生協が担った具体的な役割

事務局として実行委員会の日程調整から会議準備、会場手配、資料作り。映画祭のイベントチラシの作成や申込受付、当日の配布資料の準備を担いました。

成果として評価できる点

コロナの影響を受ける中での実行委員会は、オンライン会議、オンラインと会場併用会議と感染対策を取りながら話し合いを続けることができました。
他団体と協働できたことでは、団体間の取り組みへの理解を深め、支援を必要とする方への活動紹介にもつながりました。映画祭に共感・参画する団体や個人が増えたこと、継続を望む声、講演会を聞いて、食べることのできない子どもがいることを初めて知り、協力を申し出てくれた参加者もいました。この活動がきっかけで、当生協では子ども笑顔基金の仕組みを作り、組合員の思いをフードバンク関西を通じて、必要としている食品（お米、果物、年末の乾麺など）を届けることができました。

将来イメージ

映画祭と講演会の継続。映画上映にふさわしい会場を借り（フラットな会場では字幕が見えにくかった反省点を改善します）、ブース出展の団体を増やし、出展者とイベント参加者の交流の時間を設けるなどし、映画や講演会の視聴のみならず集まった人がつながれる場をイメージしています。
また地域団体との連携を深め、ネットワークを構築し、誰もが安心して暮らせる社会、助けを求めて駆け込める場所、地域自治体の制度改善に向けた取り組みへ発展できたらと思っています。

フードバンクしまね「あったか元気便」

活動名 学校給食のない時期に食と福祉情報を届ける「あったか元気便」

活動のきっかけ

2011 年より JA・生協・社協等の多主体連携をめざした研修会を重ねてきた。この研修会の中で、豊島子ども WAKWAK ネットワークの栗林知絵子氏、フードバンク山梨の米山けい子氏、社会活動家の湯浅誠氏の講演や視察をきっかけとして活動に至る。

協働した団体

◎松江保健生活協同組合
◎島根県農業協同組合（本店）
◎島根県農業協同組合（くにびき地区本部）
◎生活協同組合しまね
◎グリーンコープ島根
◎島根県労働者福祉協議会
◎地域つながりセンター

活動内容概要

生協や JA など 7 団体の連携と協同によるフードバンク事業です。生活困窮者支援の中で、特に「子どもの貧困」に焦点をあて、小・中学校の協力を得て就学援助世帯への支援を年 4 回おこなっている。幅広く呼びかけるフードドライブによる食料支援や、子ども食堂や寺子屋の紹介や案内をおこなうとともに、食品の箱詰め作業に携わるボランティアの励ましのメッセージを届けることによって、孤立防止と子どもの健やかな成長を目的として事業を展開している。

他団体と協働することで発見したこと

JA や生協では理事等の役員はもとより、組合員への周知活動が盛んで食品や寄付金集めの大きな力となっている。また、JA には米の検査や管理に取り組んでいただき、品質の良い食品が提供できている。その他、労福協傘下の連合組織の力も大きく、食品集めとボランティアの確保の面で力強い支援をいただいている。

活動において生協が担った具体的な役割

複数の団体が協同し合う任意団体として活動を展開する中で、利用家族の個人情報の扱いは、生協が法人としての位置づけで個人情報の管理を行っている。また、補助金を含めた財源の確保では、情報収集や補助申請等の事務を一手に引き受け、活動の重要部分について力を発揮している。

成果として評価できる点

国や地方自治体が進める生活困窮者対策が進む中で、制度の周知不足やアウトリーチ型（働きかけることや、援助すること）の状況把握が十分でなく、きめ細かな支援ができていないと思われる。我々の活動は多くの利用者の声を集め、就学援助世帯の実態に迫りながら、取り組みをすすめている。その中で気づくことは、対象世帯の羞恥心の強さであるが、何度も案内を受ける中で、また我々の広報誌を見ることや新聞に取り上げられる様子によって、利用してみようという気持ちに変化していくケースが散見される。就学援助世帯へのアプローチは学校・地域・フードバンク関係者による「温かさ」を届けることによって成立していると言える。

将来イメージ

2018 年、一つの小学校の就学援助 28 世帯への食料支援から始まった活動は、現在 11 の小中学校の 277 世帯へ広がり、直近の冬休み支援では食品の取扱量が約 4 トン、箱詰めのボランティアが延べ 255 名など、大きく前進したと言えます。当面は、松江市全域への拡大を目指して、NPO 法人への移行をすすめ、組織の基盤整備や食品・財源の確保を積極的に取り組むとともに、活動の輪を一層広げるための地域や企業等への呼びかけをすすめ、また、利用家族向けのレスパイト（「手を伸ばすこと」を意味する英語から派生した言葉で、公的機関や文化施設などによる地域への出張サービスのこと）事業や昼食付の寺子屋などにも着手し、フードバンク活動を通した包括的な支援を模索していきます。そして、将来的には全県的な活動になることも視野に入れつつ、活動を展開してまいります。

いいさよ～山梨

活動名 有償ボランティア・地域助け合い活動「いいさよ～山梨」

活動のきっかけ

2018 年に JA フルーツ山梨、生協パルシステム山梨、ワーカーズコープ（W.co）東京三多摩山梨事業本部で地域の困りごとを住民の協力で解決する取り組みを検討。その時点での各組織の悩みは JA は地域農業継続のための援農者をどう確保するか、JA・生協は高齢者や子育て世代の困りごとをどう解決するか、W.co は持続可能な地域づくりと新たな仕事起こしをどうすすめるかなど、各組織が抱えている課題の情報共有化をはかった結果、各組織の課題解決を目指す取り組みを検討することとなった。

協働した団体

◎生活協同組合パルシステム山梨
◎フルーツ山梨農業協同組合
◎特定非営利活動法人ワーカーズコープ東京三多摩山梨事業本部

活動内容概要

暮らしや地域農業の困りごとを、地域住民の相互扶助で解決することを目指す活動を展開する。活動の仕組みは困りごとの解決を求める「依頼者」と、その解決に協力する「応援者」とを、前述の 3 つの協同組合が共同で設立するコーディネート組織（＝「いいさよ～山梨」）がつなぐもの。地域の課題を応援者が解決に協力し、また、ある時はその応援者の困りごとを他の応援者が解決を目指すという、暮らしやすい地域づくりに向けた地域住民どうしの「おたがいさま」活動を構築する。

他団体と協働することで発見したこと

単独の協同組合ではできにくいことが、三つの協同組合が協力し、お互いの経験とノウハウ等を共有化し機能補完しあうことで実現できることを確信した。
また、この取り組みの検討を通じて、三つの組織が「地域に協同組合を根付かせる」ことの重要性で一致した。

成果として評価できる点

2021 年度の年間活動時間は、①生活支援 132.25 時間（前年度 5 時間、前年比 26 倍）、②農業支援 2386.7 時間（前年度 485.5 時間、前年比 4.9 倍）を確保した。
また、利用会員 56 名（前年度末 31 名）、応援会員 54 名（前年度末 34 名）の登録があった。農家・利用会員の農業支援利用要望が多く、応援会員数が不足し応援を断らざるを得ない状況が続いた。一方、生活支援はコロナの影響で家庭内支援は自粛、屋外での生活支援（自宅庭除草・庭木の剪定、ゴミ出し等）を実施した。

活動において生協が担った具体的な役割

生協が先行して実施してきた「生協組合員どうしの助け合い活動」（「くらしサポート事業」）の経験とノウハウが大いに役立った。また、生活支援をおこなう応援者を対象とした研修ノウハウ・教材（注）もそのまま活用することができた。さらに、生協組合員には農業とのふれあいや地域の農業支援に関心のある方が多く、こうした組合員が地域農業の応援者として協力いただけることとなっている。
（注）教材：①応援者のマナー･行動編、②食品衛生の基本、③掃除のポイント

将来イメージ

「いいさよ～山梨」は活動開始当初は各協同組合の職員が主体となって運営を行うが、将来的には（概ね 5 年以内を目標）、応援者（＝地域住民）が担う活動にしていきたいと思っている。
ある時は「助ける側」、またある時は「助けられる側」となる「お互いさまの地域づくり」の広がりを展望していきたい。
また、「いいさよ～山梨」を引きこもりや生活困窮者など困難を抱える人たちが、応援者として社会参加できるフィールドに出来たらと考えている。この場合、生活支援は個人対個人の助け合いとなることから対応は難しいが、農業支援はチーム編成での応援を考えており、多様な人材の活用が可能ではないかと思う。

福井県民生活協同組合①

活動名　家族で楽しく学ぶ　防災・減災フェア

活動のきっかけ

東日本大震災以降、「あの日のことを忘れない」イベントを 3 月中心に単独で開催してきた。「防災・減災」の啓発を進めるうえで関係団体と連携して、より充実した企画内容で、地域の多くの方への参加と意識啓発が必要と考え、2018 年 3 月より福井県労働者福祉協議会、全労済福井県本部と連携して、防災士会なども交えて実行委員会形式での防災イベントを開催した。

協働した団体

◎福井県労働者福祉協議会
◎こくみん共済 coop 福井推進本部

活動内容概要

2022 年 3 月 12 日開催を目指して、実行委員会で準備。しかしコロナ第 6 波により、東京から国崎信江氏によるオンライン講演、福井会場では福井地方気象台によるオンライン講演というかたちで開催することとなった。56 名の参加。
県民生協では毎回「ローリングストック」商品展示と防災啓発に取り組んでおり、啓発用の携帯版リーフレットを作成し関係者に配付するとともに、生協の店舗でのローリングストックコーナーでの商品販売と併せて活用していくことにした。

他団体と協働することで発見したこと

福井県労働者福祉協議会やこくみん共済 coop など、それぞれが持つネットワークや得意分野を活かしながら、福井における「防災・減災」のイベント企画が多彩に実施できることを実感。

活動において生協が担った具体的な役割

実行委員会の参加団体としてイベントの企画づくりに参画。災害時の家庭内食料備蓄の意識啓発としてローリングストックの企画、啓発用リーフレット作成。

成果として評価できる点

コロナ禍でオンラインのみの企画となったが、全国的にも評価の高い危機管理教育研究所の代表　国崎信江氏による「家庭でできる防災・減災の対策」を聞くことができ、その中でローリングストックの話などもあり、啓発につながった。
福井地方気象台の方の話から近年多発する豪雨災害により「洪水・土砂災害マップ」などが見直され、より具体的な身を守る方法や避難方法、事前対策などについて分かりやすい話を聞くことができた。

将来イメージ

コロナ禍、多くの人が集まるイベント企画の実施は難しいかもしれないが、「防災・減災の意識を高め、災害に備える危機管理」は重要であり、引き続き福井県労福協を中心に、関係する団体や地域と一緒に「防災・減災フェア」イベントを企画していきたい。
東日本大震災から 11 年経過するなか、2022 年 3 月に再び宮城・福島での震度 6 強の地震が発生した。「あの日のことを忘れない」という視点から、今後のイベント企画のなかに東北からのオンライン企画での復興状況や報告なども入れていきたい。

しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト

活動名　シングルマザーから発信！地域の困りごとの解決方法を探るネットワークづくり

活動のきっかけ

貧困や虐待の連鎖から抜け出すためには、小さな地域で助け合えるようなネットワークづくりが不可欠であると 2014 年 10 月に活動を開始しました。月に一度、夕食を共に作り、共に食事をしながら、何気ない会話の中で、当事者同士が心を開いて話すことの大切さに気づくことができたのが活動のきっかけです。

協働した団体

◎コープこうべ第 5 地区本部
◎NPO しんぐるまざあずふぉーらむ関西
◎一般社団法人日本子育て制度機構
◎NPO 福祉ネット星が丘

活動内容概要

① 定例の食事会は開催ができませんでしたが、交流会を継続開催、郵送や配付会などで支援物資をひとり親家庭に配付。
② 今年度は事業を継続するための法人化検討のヒアリング・意見交換を行った。次年度の事業の引継ぎもあり、法人化を現段階で行うのは時期尚早と判断、会計業務やファイルの共有など整備を進めている。
③ ドキュメンタリー映画「沈没家族 劇場版」の上映、監督のトークショーを開催。

他団体と協働することで発見したこと

今年度は積極的に多団体との協働をおこないました。これまで私たちの団体だけではつながりにくかった分野にも見解が広がり、課題の共有と対処法のアイデアが違う視点から生まれることもありました。食品の配布ではこれまでは場所や対応時間の制限がありましたが、近隣のカフェに配付場所や人材をご提供いただけ、効果的な支援をおこなうことができました。

活動において生協が担った具体的な役割

コープこうべ第 5 地区本部の皆様には 7 月の「宇宙を知ろうイベント」、1 月の映画会の広報や当日の準備、終了までのご協力をいただいたうえ、フードドライブ、地区活動の会議などでも発表や交流の場を積極的に与えていただき非常に助かりました。団体として対象者が限られてきがちな部分があり、自己肯定感を持ちにくい当事者にとって、コープこうべ第 5 地区本部の後押しがいただけることで勇気を与えられています。

成果として評価できる点

年度内の早い時期に、たくさんの団体がかかわるイベントがおこなえたことは以降の全体の流れにも良い弾みがつきました。たくさんの方がひとり親に関心を寄せてくださり、多くの支援も集まる中、自分たちの団体として何をするのかを自分たちで考える力がついてきたように思います。今年度制度についての勉強会を全体で予定していたところ、教材の都合によりできませんでしたが、財務事務についてメンバーが自ら研鑽をおこなったり、チームとして団体基盤を強化する研修にも参加させていただくことができたことは次年度に向けての大きな成果になったと考えます。

将来イメージ

地域の困りごとに対して、有効な知識を持った地域の人材を多く育成し、今後の地域のボランティア・福祉の担い手の層を厚くしていきたいと思います。小さな地域のなかで、参加の場を持ち、地域住民との関係性を深く持ったあたたかい地域づくりの担い手の育成を目指します。経験を兼ね備えた知識を幅広く持つことは、シングルマザーの就労が向上するうえ、次世代を担うこどもたちにとっても好影響を与え、経験をほかの人たちの困りごとにも役立てていくことで、豊かな地域になっていくことをイメージしています。

一般社団法人シンママ大阪応援団

活動名 コロナ禍の中でシングルマザーと子どもたちのいのちとくらしをまもるスペシャルボックス事業

活動のきっかけ

スペシャルボックス（食糧等送付）事業は 2016 年 11 月からスタート。すでにサポートしていたシンママ（シングルマザー）から「月末一週間は預金残高が 1,000 円未満となるため引き出せずパスタと塩コショウで 1 週間すごします」という mail がきっかけ。月末に毎月必ず米をはじめ食糧品・日用品等を詰め込んだボックスを定期送付するようになった。

協働した団体

◎おおさかパルコープ
◎大阪よどがわ市民生協

活動内容概要

コロナ禍のもと食糧支援を求める声が殺到し 2020 年 2 月 61 世帯⇒ 2020 年 12 月 124 世帯⇒ 2021 年 12 月 197 世帯⇒ 2022 年 2 月 240 世帯と急増。2022 年 1 月～ 3 月コロナ第 6 波の中で陽性となったり濃厚接触者となり自宅待機となったシンママからの食糧支援を求める SOS が殺到し、「コロナ対応緊急スペシャルボックス」を発送。保健所が機能せずファーストタッチが来ないため自治体食糧支援につながらないことが背景にある。

他団体と協働することで発見したこと

現在大阪府及び奈良県、熊本県、福岡県、宮城県で活動しているシングルマザーと子どもたちの支援団体、母子支援施設、自立援助ホーム、若者支援団体等と連携し、情報交換および研修等での相互の講師派遣などもおこなっている。

活動において生協が担った具体的な役割

おおさかパルコープが大阪府や大阪市の災害備蓄品（アルファ米、粉ミルク、ビスケット、布団セット、コンロ、ライト、包丁、鍋等）や兵庫県漁業協同組合の海苔などを応援団事務所に搬入。シンママ大阪応援団を中継（地点）として他のシンママサポート団体や母子支援施設、若者支援団体等にさらに送付し、コロナ禍に苦しむ多くの人たちのいのちとくらしをサポートすることができた。

成果として評価できる点

2021 年 9 月シンママアンケートを実施。スペシャルボックス事業についての評価分析を行った。第一の効果は「暮らし向きの改善」。回答として最も多かったのは米などの食糧が定期的に届くことで家計の見通しが立つこと、また食糧にかけずに済んだお金を別の必要なものに使えることでありママ自身が生活をマネージメントできるような影響をもたらす。第二には「精神的､情緒的安定」見知らぬサポーターが毎月たくさんのサポートを寄せてくれることがひとりではないという実感を生み、大事にケアされることが誰かを大事に思うことにつながる。こうしてママがエンパワメントしてくると第三の効果「ママ自身がサポートする側になる」ことにつながる。

将来イメージ

シンママ大阪応援団には現在 500 人を超えるサポーター（応援してくれる人たち）がいるが、2022 年度は 1000 人を目指す。助成金に頼らず独自財源（寄付金）のみでのスペシャルボックス事業の運営をめざす。さらには、事務局もママ自身が担う体制構築を数年で行いたい。

未来がきらり☆吹田学生応援プロジェクト実行委員会

活動名　コロナ禍において生活に影響が生じている市内在住在学の学生への食料品配布及び情報提供

活動のきっかけ

新型コロナウイルスによりアルバイト収入や実家からの仕送りが減るなど、学生生活にも大きな影響が生じていることがメディアで報じられたことをきっかけに 2020 年度に市内の大学に学生の生活状況のヒアリングを実施。ヒアリングを通じて学生支援の必要性を感じたこと、地元生協から寄付をいただいたことをきっかけに食料品配布に取り組み、継続を希望する声が多数あったことから 2021 年度も活動に取り組みました。

協働した団体

◎大阪よどがわ市民生活協同組合
◎吹田市社会福祉協議会
◎吹田市社会福祉協議会施設連絡会

活動内容概要

コロナウイルスにより生活に影響を受けている市内在住在学生（大学生・専門学校生）を対象に、1 人につき 3 日分程度の食料品を配布しました。食料品とともに応援メッセージや相談窓口の情報や地域活動ボランティア活動に関する情報も提供し、継続支援が必要な学生に支援を行う他、学生の持つ力を地域福祉の推進に生かしてもらえるよう働きかけました。配布する食料品確保のため、福祉施設を回収拠点としたフードドライブを実施しました。

他団体と協働することで発見したこと

連携により活動の幅が広がることを感じました。フードドライブは、生協だけでは実施が難しい状況でしたが、施設連と連携することにより、福祉施設（16 施設）を受取り窓口として実施ができました。
また、学生支援に協力したいと思っている人がたくさんいることに気付くことができました。施設も個人も何かしたいと言う思いを持っている方がたくさんいる中で、具体的な協力の呼びかけをすることにより参画の輪が広がることを実感しました。

活動において生協が担った具体的な役割

実行委員会の構成団体として、具体的な活動内容・スケジュール等について検討する他、配布する食料品の手配や準備作業を協力団体とおこないました。準備の際は作業場所の提供もおこないました。
また、第 2 回目には、配布する食料品確保のためのフードドライブを福祉施設を拠点におこないました。フードドライブの実施にあたっては、生協の組合員への呼びかけ、福祉施設への説明依頼、集まった物品の回収やチェック作業を共におこないました。

成果として評価できる点

コロナ禍の影響を受けている学生に対して、食の提供という具体的な生活支援を通じて、健康的な学生生活を送るためのサポートができたと考えています。受け取った学生からは、「アルバイトが削られて困っていたので、助かった」等の感想が寄せられました。また応援メッセージ集を見て「とてもあたたかく涙がでるほど嬉しかった」「自分も社会に貢献できるような活動をしていきたい」という声もあり、精神面でも学生の支えになると共に、自身も誰かの支えになりたいという気持ちの醸成につながったように思います。その他、フードドライブにより、学生のために何かしたいという方の気持ちを形にできる機会の提供につながったと考えます。

将来イメージ

食料品配布による生活支援は、経済状況の回復により今後、必要性が薄れると考えられます。1 ～ 2 年先には食料品配布は終了し、学生のつながり支援、学生の活躍の機会づくりに重点をおいて活動していくことを視野に入れているため、食料品配布を通じてボランティア活動等の周知、募集も今年度おこなってきました。また、今後サポートが必要な学生に対しては、この間の食料品配布を通じて、施設連絡会や吹田市社協等の相談機関の知名度を上げることにより、既存の相談支援活動に結び付きやすい環境をつくり対応したいと考えています。

東京保健生活協同組合

活動名　地域の医療保健の駆け込み寺

活動のきっかけ

2018 年度から文京区社会福祉協議会や地域住民と協同で、文京区大塚 5 丁目にある大塚診療所の空きスペースにて「大塚だんだんひろば」を開設し、組合員と地域の他団体が協同して活動しています。このような中、文京区大塚 4 丁目の東京健生病院前にある空き店舗を利用し、この地域でも文京区社会福祉協議会と連携して「居場所」づくりをすすめることを協議してきました。

協働した団体

◎文京区社会福祉協議会
◎氷川下町会
◎文京サポート家族会

活動内容概要

つゆくさ荘オープン時（2020 年 8 月）から跡見学園女子大学が活動に関わっており、SNS の運営や地域の方に関心をもってもらえるような取り組み（バザー「マルシェ」など）を開催。氷川下子ども食堂は緊急事態宣言中やつゆくさ荘休館中（3 月末 2 階アパートから出火、8 月まで改修工事）も毎月開催（テイクアウトで毎回 60 食以上を提供）。地元町会とも立上げ時から連携しており、町会のイベントとも連携して活動している。

他団体と協働することで発見したこと

跡見学園女子大学の学生さんと SNS の運営や地域の方に関心をもってもらえるような取り組みを一緒に考える中で、若い方の発信力の高さに感心した。子ども食堂を中心につゆくさ荘でボランティアをしたい、一緒に活動したいというお声をいただくことも増え、地域に密着した活動になりつつあることを実感している。

活動において生協が担った具体的な役割

医療生協の強みである、健康づくり活動や介護予防、医療専門職などによる医療・なんでも相談会、オンラインでの保健講座の開催に加え、子ども食堂、家族支援相談会などの定期開催、不定期にて、町会主催のハロウィンパーティー、近隣大学と連携したバザー「マルシェ」を開催し、多世代交流のできる居場所として地域住民に認識されつつあります。

成果として評価できる点

①文京区社協から助成を受けている「かよい～の」（介護予防・毎週 1 回実施）のひよりクラブの参加者数は延べ 300 人となっており、地域住民の介護予防の場となっている。実行委員会のメンバーとなっている氷川下つゆくさ荘では、②毎月 1 回子ども食堂を開催。毎回 60 食提供。地域住民の集える場所として発展している。③町会主催のハロウィンイベントで、地域の子育て世代の交流をおこなった。55 組の親子、200 名以上が参加。④実行委員会主催で「マルシェ」を開催。地域課題に実践的に取り組んでいる。⑤生協としてフードパントリー（企業や個人で余剰となった食品を生活に困った人たちに供給する活動）を不定期で開始。初回は 10 人ほどが参加。今後は宣伝に力を入れ、多くの人の利用を期待している。

将来イメージ

多世代の多くが地域で孤立することなく、健康で安心した生活を送ることができるよう、相談機能を強化し、また、ふらっと立ち寄れる温かな雰囲気の中で楽しく集える、元気になれる居場所づくりを目指します。

- 多世代が主体的に楽しみながら健康づくりにつながる場にしていきたいと考えます。
- 「フレイル予防（より早期からの介護予防（＝要介護状態の予防）を意味しており、従来の介護予防をさらにすすめた考え方でおこなう予防）」や「すこしお」などの介護予防・健康づくりおよび健康的な料理交流会を定期的に開催したいと考えます。バザー、子ども食堂、フードパントリーなどを通じて地域課題に取り組んでいきます。
- 「居場所」の目的に賛同される地域団体や NPO、企業との連携もおこなっていきます。

ほっかいどう若者応援プロジェクト

活動名 コロナ禍において困窮生活を強いられている学生（若者）への「食」や「情報」支援活動

活動のきっかけ

コロナ禍で学生は、「暮らし」・「学び」・「コミュニティ」の 3 つの危機に直面し、追いつめられる学生の現状を知るにつけ、一時でも空腹を満たす食を配付したいという団体（連合北海道）より、単独では資金確保や食料調達、配付作業等の様々な課題があり、実施することができないことから相談を受け、会員生協でもある大学生協にも声をかけ、労働者福祉協議会と 4 団体で若者支援の活動を実施することとなりました。

協働した団体

◎連合北海道
◎北海道労働者福祉協議会
◎大学生協事業連合北海道地区
◎北海道生活協同組合連合会

活動内容概要

道内には 52 の国公私立の大学・短大があり、多数の地方や道外出身者が学んでいますが、コロナ感染症の収束の見通しが立たない中、一人暮らしの学生が、経済的理由で学びと生活を諦めることがないよう、継続的な支援が求められており一人暮らしの学生を対象にお米をベースに、缶詰など日持ちする食材・日用雑貨をセットに配付しました。配付方法等は各大学生協と調整（大学生協のない大学は個別調整）の上、各大学と相談し、実施しました。

他団体と協働することで発見したこと

この取り組みは単独組織のみでは実施できないものでした。4 団体が連携することで最終的には 16,000 名を超える学生への「食の支援」を実施することができました。4 団体各々の強みを活かし「ヒト」・「モノ」・「カネ」の確保について、各々が役割分担をしっかり発揮することによって、賛同していただける企業、団体、個人からの寄付・寄贈等がたくさん集まり、想いが形に変わり当初の計画以上の企画となりました。

活動において生協が担った具体的な役割

主な役割は「食の支援」の支援物資調達に関して、日本生協連営業本部北海道・東北支所や、各メーカーとの数量・価格・納品調整の他、運営主体となる大学事務部、大学生協との調整、大学生協のない大学への企画提案でした。支援活動を行った 29 キャンパスへの事前搬入作業（担当：札幌近郊大学）、当日の運営支援（会場設営・配布作業等）も実行委員会メンバーでローテーションを組み役割を担いました。

成果として評価できる点

この活動ができたのは協同組合のつながりでもあり、改めて可能性を感じたものでもあります。労働組合と生協陣営の助け合いの組織力、双方が合わさることで強靭な社会を作る基盤にもなると改めて実感しました。プロジェクトでは報道の力を借りて学生の困窮を多くの方たちへ伝えることができ、支援の輪が個人、団体、企業にも広がりました。偶然かもしれませんが、この活動が伝わることで、道内各地の自治体、大学、市民有志、飲食店などによる支援金の支給や食料品の配付企画などが行われ、学生支援の輪が広がりを見せた気がします。単独組織ではできない事も連携して目的を一つにすることで、多くの助け合いの輪が広がることを再認識ができました。

将来イメージ

私たちの活動を通じ、コロナ禍の学生に一時的な「笑顔」を届けてあげることができたと思います。しかしこれは一時の事であり、今もまだ新型コロナウイルスによる困窮生活を長期化させられ、日々苦悩している学生が多数います。より本質的に学生支援のあり方を考えるには政治、行政に問う事も必要です、高等教育のあり方、教育費負担の問題など、将来を担う若者を育てるためにどうするべきなのかを考える次の行動が必要かとも思います。長期化するコロナ禍で先行きの見通しがまだ立ちませんが、今もなお多くの学生が支援を必要としています。この活動の経験を活かし、今後も協同の知恵と力を併せ、新たな支援の道を開ければと考えています。

特定非営利活動法人あしや NPO センター

活動名 WEB アプリを活用した地域資源の見える化による重層的支援体制の確立

活動のきっかけ

コロナ禍の 2 年間は、事業形態が会場と WEB との同時中継のハイブリッド開催を行うことで地域を乗り越えたつながりもあった中「情報が入ってこない・取りに行けない」事情などの相談も多くあり、情報ツールの確立の必要性を強く感じた。そこで、相談・参加できる環境を構築し、安全・安心・楽しい街づくりを目指した、協働と重層的支援ができる芦屋にあったツールづくりをすることが重要と気づいたことが活動のきっかけである。

協働した団体

◎生活協同組合コープこうべ
◎芦屋市
◎芦屋市社会福祉協議会

活動内容概要

- あらゆる地域資源を一元的に「見える化」するための情報プラットフォームを WEB アプリで整備
- 活動団体、個人（運営者）への説明会 2 回、個々への随時対応
- アプリを活用、参加する利用者向けのチラシによる広報、個々への対応随時
- 団体情報を関連付けるためのミニホームページプログラム作成に着手
- WEB アプリを芦屋市に特化したものとなるようにカスタマイズ化
- コープこうべ、芦屋市、芦屋市社協と協働会議によって運営

他団体と協働することで発見したこと

他団体が、関わっている団体の特性を知ることで、活動に対する形を互いに理解し合えた。その中で、情報として必要な要素、WEB アプリに足りなかったことなどを知ることができ、進化できた。地域づくりをすすめるうえで、地域資源の有効活用と支援団体のネットワークづくりが課題であるという認識と、それぞれの団体が持っている特性を合わせることで、芦屋市が着手している重層的支援体制の整備にも活かせることを発見した。

活動において生協が担った具体的な役割

情報共有プラットフォーム構築・運用のための会議に参加するとともに、地域活動支援団体として、会員団体の活動の支援の拡張、活動の情報共有、WEB アプリの広報協力をいただいた。
コープこうべは、WEB アプリ「ためまっぷ」が立ち上がった当初からの支援者であったことから、よりアプリについての理解が深いことで、「ためまっぷ芦屋」の問題点などの指摘や指導をいただいた。

成果として評価できる点

利用方法が 3 ステップで誰にでも簡単に操作できることにより若いファミリー層を支援している団体や、自治会、高齢者の団体に広く利用していただけるようになった。また、説明会は、参加の場を提供する担い手の情報共有の機会にもなった。特に行政や社協など普段つながりが持てていないような方と市民活動団体が交流を持ち、多様な個人・団体への連携やつながりができる重層的支援体制整備にもなった。多様な団体がつながったことが一番の成果であり、また、自治会によっては独自に勉強会を開き活用している団体もある。利用者は 4 月 88 件から 1 月 31 日時点で 3,424 件に、PV（Pageview（ページビュー）とは、ウェブサイト内の特定のページが開かれた回数を表し、どのくらい閲覧されているかを測るための最も一般的な指標の一つ）は 470 から 28,753 に上昇した。

将来イメージ

自治会関係者、PTA 等の団体や個人向けの PR 及び勉強会、市場調査を実施しサイトの充実を図ることで利用度が高くなる。利用度が高くなることで、「ためまっぷ芦屋」に対する意見が増え、より使いやすい WEB アプリへとグレードアップする。それに伴い市民活動団体のミニホームページも充実され、ホームページを持てない小さな団体もアプリでの紹介の場を持ち、活動が見える化され、活動者・参加者が増加していく。活動人口 100％のまちになることで、企業の参入も見込め運営資金獲得を図ることが可となる。また、多様な団体・市民・企業・行政がつながり重層的支援体制が確立される。

BONBONCANDY にじいろじかん

活動名 【ドネーションをリデザイン】切り口を変えた寄付体験を一同に提供

活動のきっかけ

コロナ禍でも止めちゃいけないことがある。
「今は治療に専念して、元気になったら遊ぼうね」大きな病気を経験した子がよく言われる言葉の一つだ。同じことが今、未知のウィルスによって世界中で起こっている。
様々な活動も「自粛」という名の下、中止に。だけど、「今」できること、「今」やらねばいけないこと、「今」じゃなきゃ間に合わないことが、確かにある。どんなときもかけがえのない「今」を描きたい！

協働した団体

◎生活協同組合コープこうべ

活動内容概要

【チャリティレモン祭り】「寄付」に対する意識改革を目的に、お金を募金箱に入れることなく協力できる寄付の形を体感できるイベント。【献血（血の提供）】【レモネード販売（小児がん研究に活かされる）】【ヘアドネーション（髪の毛の提供）】を想定。
【goto 献血】コロナ禍における献血不足を解消、保護者献血中の保育、また小児がん等闘病中あるいは闘病を終えた子どもたちへの偏見をなくすための啓発を行う。

他団体と協働することで発見したこと

①小児がんの子を持つ親の声を、コープ委員をはじめ組合員に届け社会課題を顕在化させる。②地域に根付いた活動を継続してきたコープこうべと共同で発信することで、当団体の信用性も増し、また多くの方に声を届けることができる。③1日50名のドナーを要する献血バスの配車が可能に！④広報や子育てサポーターなど人的サポートも受けられることで、より多くの方にメッセージを届け、より多くの子ども達を笑顔にすることができる。

活動において生協が担った具体的な役割

レモネードの材料の調達、又おにぎり・軽食の販売。このおかげで食事の為、会場を離れる方が少なく、賑わいが続いた。どんぐり帽子を編むサークル「レモンレモン」を発足、たくさんのどんぐり帽子を製作・販売、売上を寄付。ボランティアの方々を派遣、コープオリジナル着ぐるみ出演、来場者をお迎えいただいた。「goto 献血」では献血記念品としてコープオリジナル商品10種80名分をご用意、献血に来てくださった方々に大変喜んでいただいた。

成果として評価できる点

① 寄付を楽しく体感できる
② 献血不足への貢献と「献血が不足している」というメッセージを発信するきっかけになる。献血が初めての方、久しぶりな方、保育をおこなうことで子育て世代の方々の献血を促すことができ、赤十字社目標達成。献血時保育の必要性周知
③ 寄付行為や小児がん等について、家庭で話し合う機会になる
④ 未来を作る子どもたち自身が、互いに興味を持ち、優しい社会を作り出すきっかけになる
⑤ 今助けを必要としている子どもに「救いたいと思っている手がある」というメッセージを届けることができる
⑥ どんな状況においても「思考を止めてはいけない」というメッセージを、私たちの行動から感じてもらうことができる

将来イメージ

「チャリティレモン祭り」「goto 献血」のような地域とのつながりが強いイベントの継続開催を目標。草花遊びイベントやアートイベントの活動を大阪鶴見、宝塚、神戸以外、幼稚園や学校、施設への出張など含め開催、より多くの方への啓蒙活動に取り組む。TSURUMI こどもホスピスでは治療中の子どもたちにとって「いま」を大切に、ひとりひとりに寄り添った内容で開催をめざしています。私たちは楽しく遊ぶことが、小児がんなど命をおびやかす可能性のある病気とたたかう子どもたち、ご家族の支えとなり、笑顔になる、笑顔の時間がつながる、チャリティをひとりひとりの日常に、身近で楽しいものとなるよう私たちはご提案し続けます。

生活協同組合コープこうべ（大庄元気むら）

活動名 大庄元気むらコープさんとこ

活動のきっかけ

高齢化とともに地域へ出る機会が少なくなったり、介護保険制度サービスだけでは地域社会での生活を続けることが困難な人もいます。また家にいても居場所がない、一人暮らしでは会話も減り認知症がすすむなどのリスクもあり、店舗閉店後に地域の方々が中心になって居場所として立ち上がりました。

協働した団体

◎大庄ことはじめ
◎NPO 法人シンフォニー
◎尼崎市大庄南地域包括センター

活動内容概要

地域社会との関わりでは、地域の方々と一緒に河川のごみ拾いや街中のごみ拾いをおこない、近隣の学校の文化祭を元気むらのメンバーと合同でおこないました。また、元気むらの施設ではマルシェをおこない、コロナの中ではありますが、いろんな方とのふれあいができました。居場所としては高齢者のみならず、子どもの利用がすすむなど多世代の方にご利用いただいています。

他団体と協働することで発見したこと

活動は増えているが、担い手が少なくまた資金面でのやりくりもあります。
いろいろな活動があるので、もっと視野を広げていろいろな団体と交流していきたいと思います。

活動において生協が担った具体的な役割

生協も一参加者という立場を示しながら、時には助言をしたり、他地域の情報を提供したり、活動者との友好な関係を築いたことです。

成果として評価できる点

コロナの中でも居場所を閉鎖することなく存続できたこと。その中でいろんな人が活動に参加してくださり「参加してよかった」「元気をもらった」などの言葉がありました。

将来イメージ

- いろいろな人と触れ合うことで閉じこもりの防止にもつながる。
- 仲間づくりの場となり、日常での支え合いの輪がひろがる。
- 自分の特技が活かされることで、生きがいや社会参加意欲が高まる。
- 地域交流や異世代交流の拠点となって、地域の活性化がすすむ。

このようなイメージですすめばいいと思います。

生活協同組合コープぎふ

活動名 飛騨市北部（宮川町、河合町）から各地に、地域サロンの広がりをつくる

活動のきっかけ

JA 店舗の閉店等により買物弱者の課題がひっ迫し、飛騨市×コープぎふ連携事業として、その対策の実証実験「買い物サロン」（2017.11 ～ 2018.3、3 回実施）をおこなってきました。その過程で、住民有志によるグループ「よらまいかびぃず」が誕生し、福祉的な要素も兼ねた地域サロンの運営が始まりました。メンバーの多くが生協組合員でもあったことから、サロン運営協力や地域情報のやりとりが継続して行われ、近隣地域にも波及してきました。

協働した団体

◎よらまいかびぃず
◎ぴぃちくサロン会
◎社会福祉法人　飛騨市社会福祉協議会

活動内容概要

(1) 既存のサロン運営をモデルに、飛騨市各地に地域サロン活動を波及させます。
(2) 買物バスツアー企画や、多世代型複合サロン運営等、地域サロンの充実が、地域課題の解決にもつながるよう、地域サロンの可能性を深めます。
(3) ウィズコロナの時代を見据え、新たに「リモートサロン」に挑戦します。
(4) 先進地域サロン視察等を通して、運営メンバーがさらに元気になる学びの場、交流の場をつくります。

他団体と協働することで発見したこと

① 地域の方々、住民自身の思いと主体性を大切に、地域の行動ルールを大事にして、寄り添いいっしょに考える。
② 行政や社協の施策方針を理解し、地域の（方々の）意向を肌で感じ、協同できることから、寄り添いいっしょにすすめる。
③ これからの生協と地域とのスタンス、『そのめざす方向は「ゆるやかなつながりの中にある“確かな生協”」、そのために必要なことは「まきこまれ力」の発揮。』「いっしょに寄り添う力」が「まきこまれ力」につながります。

活動において生協が担った具体的な役割

① 地域のコロナ対策状況把握、対策用備品の整備検討等、コロナ禍での運営づくり
② ウィズコロナ時代を見越して、リモートサロン運営や WEB 環境整備の検討相談
③ 行政や地域情報と運営課題のマッチング等、新サロン立ち上げと運営にかかわる活動相談
④ 次年度につなぐ展望づくり、地域の要望を盛り込んで計画化するための相談会
⑤「地域ささえあい助成」事業年間計画全体の進捗管理にかかわる調整

成果として評価できる点

企画やイベントは中止を余儀なくされましたが、その教訓を次につなぐ期にあてて臨みました。

- 新たに多機能型障がい者支援施設を核にした地域拠点づくりが始動、各地のサロン運営を支える新たな若手グループ結成、既存運営組織の自立化が着実に起動しました。
- 地域課題にも直結する、買物バスツアー企画（コロナ禍で延期中）や、多世代型複合サロン運営にかかわる地域連携、持続的な運営の検討等が大きくすすみました。
- WEB 環境を整備しつつ、運営会議や交流会、公開講座に活用し、多くの方々がその可能性を実感しました。
- 先進地域サロン（愛知県やなマルシェ）の視察見学とリモート交流の準備をすすめました（コロナ禍で延期中）。

将来イメージ

過疎高齢化に追い打ちをかけるようなコロナ禍。5 年目を迎えるサロンは、自ら運営していく課題から継続持続していくための課題がより鮮明になります。運営側にも高齢化がすすみます。
そんな中、次年度から始動する多世代交流型の運営やサロン運営を支えるグループのかかわりが、地域課題の抽出も含めて、ここ 1-2 年のうちにひとつのかたちを見出せるのでは、と期待しています。また、障がい者支援施設を核にした地域拠点づくりは新たに多くの方々とのかかわりがなければできません。先が見通せない中にあっても、みんなで考えて多様な実証実験を繰り返すこと、それは地域コミュニティーづくりの動きそのものであり、地域の希望であると考えます。

生活協同組合パルシステム千葉

活動名　SDGs を活かした地域コミュニティづくり

活動のきっかけ

パルシステム千葉はコミュニティ生協として、くらしの課題解決に取り組むことを方針としています。同時に、パルシステムの事業・活動は一人ひとりの「エシカル」な選択で SDGs の実現を目指しています。このような背景をもとに、地域社会が抱える多岐にわたる課題に対して SDGs 目標の観点から整理し、課題解決に向けて、これまでかかわりのあった地域団体や大学と連携したコミュニティづくりに取り組みたいと考えました。

協働した団体

◎フードバンクちば
◎ワーカーズコープちば
◎淑徳大学コミュニティ政策学部　消費者法研究室

活動内容概要

コロナ禍において年間を通して活動が最も順調にすすんだことは、フードバンクちばが中心となってすすめた「コミュニティガーデンづくり」です。おおよそ計画通り、花壇づくりや認知度を高めるための広報、講座等を実施することができました。また、淑徳大学の学生による消費者問題学習会は、学生が講師となる形でオンライン開催にて 3 回実施でき、学生の視点から消費者教育につながる内容で、様々な機会に応用ができる取り組みでした。

他団体と協働することで発見したこと

協働したことでよかった点は、お互いの日頃の活動、取り組み、大切にしている考えをより深く知ることができたことです。一方で課題としては、それぞれの役割は遂行できたものの、地域コミュニティづくりを SDGs の観点で捉えることが弱かったことや、地域コミュニティづくり全体を考える機会が十分ではなかったことがあげられます。コロナの影響で集まっておこなう歩く健康づくり体操「歩活」がほぼ実施できなかったことも課題です。

活動において生協が担った具体的な役割

協働する団体の取り組みのフォローや施設の貸し出し、広報物の作成等全般に関わることが主な役割でした。活動の当初は、当生協の地域活動施設「パルひろば☆ちば」を活用した居場所づくり（多世代交流）を計画していましたが、新型コロナウイルス感染状況を鑑み開催することはできませんでした。その他、定例会議での事務局として、資料作成から各団体間の情報共有の機会を設けました。

成果として評価できる点

この取り組みをスタートする上で協働団体と協議した結果、1 年で終わらせるのではなく、CO･OP 共済地域ささえあい助成の助成期間最大 3 年間を念頭にじっくり進めていくことを確認していました。その点から、いくつかの課題は出てきましたが、今年はどの取り組みも土台作りはある程度できたかと思います。また、この 1 年間で協働団体それぞれの考えや事情がわかり、別の地域で地域連携を考える上でも色々と視座を得ることができました。また、ボランティアの参加や地域住民の関わりは伸び悩みましたが、「コミュニティガーデンづくり」には、いくつかの地元企業が CSR の観点から活動に参加し始めた点は評価できると思います。

将来イメージ

3 年間で各団体の特徴を活かしながら地域コミュニティづくりをすすめていきます。助成終了後は、本取り組みを実施した団体だけでなく、地域住民や地域団体、行政がより多くかかわる形で、本取り組みの活動が継続されていることを想定しています。具体的なイメージとしては、①コミュニティガーデンづくりの舞台である「花の駅そが」が地域住民の気軽に立ち寄れる居場所になり、②歩く健康体操がその地域に広く認知された健康づくりの取り組みとなっていて、③学生による消費者問題に関する学習会がまた別の場でも開催でき、④地域活動施設「パルひろば☆ちば」が地域住民に活用されている状況となっていることを目指しています。

福井県民生活協同組合③

活動名 高齢者や認知症・障がい者にやさしい買い物環境の提供

活動のきっかけ

2019 年度より地域で活動している「リンクワーカー樹の輪」に対し市民活動助成金制度を活用し、活動を資金面で支援していました。
「リンクワーカー樹の輪」は高齢や認知症になっても地域で暮らし続けていけるように講習会や学習会を地域の中で毎月開催しており、自生協でも 2020 年度より店舗内での「認知症カフェ」開催計画を立てていたことから目的が一致したため。

協働した団体

◎リンクワーカー樹の輪
◎小浜市社会福祉協議会

活動内容概要

店舗内に専用レジ（スローレーン）を設置し、高齢者や認知症の方が安心してお買い物を楽しめるようサポートする。その為に必要な環境整備（カート等）を行いました。
「リンクワーカー樹の輪」と連携したカフェや、社協・包括支援センター、ボランティアと連携した「みんなの保健室」をスタートさせ地域の方が食事やくらしのお困りごとを気軽に相談できる窓口を設置し団体と協同で生活面でのお役立ちを向上させました。

他団体と協働することで発見したこと

① 地域の方のお困りごとやニーズを引き出すことができた。
② 地域団体や地域で活動している方、行政と連携することで新たな活動や地域へのお役立ちにつながる。

活動において生協が担った具体的な役割

① 学生を対象とした、認知症サポーター養成講座を生協職員が講師となって開催。
② 地域のボランティアや行政との連携した取り組みについて生協が中心となってつなぎ合わせ活動を拡大（地域サロンへの支援、みんなの保健室）
③ 店内での特別支援学校の買い物体験（4 回・40 名）

成果として評価できる点

買い物支援（スローショッピング）の取り組みでスタートしましたが、地域のボランティアや行政と連携をすすめる中で、地域の高齢者のニーズをキャッチし活動を拡大することができました。
具体的には、みんなの保健室を立ち上げ買い物だけでなく食事やくらしの相談窓口としての機能をボランティアや行政と連携し実施し活動を定着させる事ができました。また、今年度より福祉用具展示会を店内で開催し組合員や地域から評価をいただきました。
生協が行っている生活支援サービスの拡大やフレイル予防等、生協だけでは実施できない福祉視点での取り組みを地域の資源を活用して取り組むことができました。

将来イメージ

スローショッピングの取り組みが評価を得ていることからスローレーンの稼動曜日・時間を増やし今後ますます増えていく高齢者や認知症の方が安心してお買い物できるお店づくりを目指していきます（スタート時は毎週木曜日 13：00 ～ 15：00、4 月からは毎日開店から閉店まで常時設置していきます）。
また、買い物だけでなく福祉事業所とも連携した取り組みとして、福祉施設ご利用者の買い物リハビリにも発展させます。
生協と団体の活動から地域全体に広め、小浜市全体が高齢になっても安心して生活していける町づくりを目指していきます。取り組みが地域全体に広がり店舗内でくらしに関わるすべての相談ができ、解決できる姿を目指します。

生活協同組合おかやまコープ

活動名　平成 30 年西日本豪雨被災地支援活動～社協との連携を軸とした他団体との協同～

活動のきっかけ

被害が甚大だった倉敷市には、倉敷市社会福祉協議会を中心に地元ボランティアや複数の NPO、NGO 団体等が共同運営していた災害ボランティアセンターが設置されました。おかやまコープは、5 名の職員を派遣し、運営スタッフとして活動を支援しました。社協や他団体との協同や支援活動の一歩を踏み出せ、以降もつながりはさらに強まり、組合員活動としての被災地での協同活動も継続しました。

協働した団体

◎倉敷市社会福祉協議会
◎総社市社会福祉協議会
◎総社市
◎真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

活動内容概要

【倉敷市社会福祉協議会（社協）との連携】イベントはできませんでしたが、建設型仮設住宅に入居の方へ「温まるコープ商品」のお届けを 3 年継続しておこないました。
【総社市社協との連携】総社市下原地区の住民の方々と 2021 年度は 1 回サロンを開催し、一緒に小物づくりや体操をし、コープ商品の提供もしました。

他団体と協働することで発見したこと

社協の広報（行政郵送物、生活相談員など）から他団体とのつながりが強まり、生協認知度も上がり、組合員支援、利用者増などにつながりました。また、社協との関係も深くなり、生活困窮支援センターなどと一緒に活動の範囲をひろげていくことの一歩になっています。

活動において生協が担った具体的な役割

倉敷市では、サロンの開催はできませんでしたが、新年を温かく迎えていただくために「温まるコープ商品」を届ける取り組みを継続し、被災者の方との絆が深まりました。総社市では、社協と一緒に見守り活動や小物づくりなどの取り組みで、ひきこもりがちの方々とふれあうことができました。

成果として評価できる点

サロンの開催はできませんでしたが、社協の方と一緒に被災者の見守りや、小物づくりやお話をすることで、ひきこもりがちの方々とふれあうことができ、地域や被災者同士の交流ができるきっかけになりました。このことを通じて、おかやまコープの組合員活動や事業面での認知度が高まり、おかやまコープのお役立ちや利用拡大につながったと思います。総社でのサロンは、夏には完全に地域主体でのサロン開催となりました。被災した写真を洗浄する取り組みは、今後もボランティア活動として継続しています。

将来イメージ

コロナ禍でもできる新たな支援を模索していく中で、被災者や生活困窮者へできることを社会福祉協議会とも連携をしながら協力してすすめていきたいと考えています。一部地域では、フードドライブ活動もスタートしました。これからは、社会福祉協議会との協定や諸団体と協同してできることをすすめ、地域住民の方々の安心につながるサポートをめざしていきたいと考えています。

おたがいさま水戸（☆）

活動名　ボランティアによる生活支援活動

活動のきっかけ

水戸市の地域包括ケアシステムの一翼を担う「生活支援」をおこなう任意団体（有償ボランティア組織）として、茨城県内の 3 生協と NPO が協力して 2018 年 7 月設立。背景となるニーズは介護保険制度の要支援者、高齢者、障がい者、子育て世代、生活弱者など。

協働した団体

◎いばらきコープ
◎パルシステム茨城 栃木
◎茨城保健生協
◎NPO 法人セカンドリーグ
◎NPO 法人ナルク水戸
◎水戸市社会福祉協議会

活動内容概要

独立した運営をおこなう有償ボランティア組織とし、運営資金はいばらきコープとパルシステム茨城 栃木が助成する。事務所は茨城保健生協内に置き、広報や会員の募集は NPO を含めた各生協でおこなう。
対象は、地域住民（生協組合員を問わず）、活動内容は家事応援や介助応援。

他団体と協働することで発見したこと

援助活動に入ることで新たに知る、支援すべき事柄を、関係団体が、別の形でフォローすることができることに気が付いた。例えば、掃除の依頼者が普段の買い物に困っていることを知り、生協の宅配の利用をご案内できる。

活動において生協が担った具体的な役割

生協が配達ルートで地域内にチラシを配布することで、水戸市が実施する生活支援サポーター講習会への参加者が増えた。
チラシの作成、動画の作成、研修会の段取りなど、これまで蓄積している生協のノウハウを活用しながらスムーズに事柄をすすめることができた。

成果として評価できる点

サポーターを増やすこと、地域の皆さんの認知度を高めるためにも、チラシ配布以外のツールの必要性を感じており、今回の助成により、動画を作成することができて紹介ツールの幅を広げることができた。
また、関連生協・団体での広報活動に活用できる内容のチラシも助成金によって作成することができたので、広報手段の幅を広げることができた。（2 月作成のチラシの実際の配布は 2022 年度）

将来イメージ

サポーター（ボランティア）を増員することで活動時間を増やし、運営費収入を安定させること。当面生協からの助成を続けるが、将来的には自立運営をめざす。

フードバンク奈良（☆）

活動名 フードバンク活動

活動のきっかけ

2017 年に県内のこども食堂による奈良こども食堂ネットワークが組織され、こども食堂に食材を提供する組織の必要性を実感したことが設立のきっかけ。奈良こども食堂ネットワークの設立に、奈良県生協連とならコープが関わっていたことで、フードバンク活動にも協力していただくことになった。

協働した団体

◎奈良県生活協同組合連合会
◎市民生活協同組合ならコープ

活動内容概要

こども食堂や福祉施設、社会福祉協議会などに食品を提供している。食品を提供する団体は、令和 3 年度には 115 団体となった。また、奈良市より、ひとり親家庭などに食品を配布する事業を受託し実施している。さらに、令和 3 年度には奈良県生協連と連携し、大学生に食品を提供する「若者応援プロジェクト」を実施した。3 月には、食品を提供する企業等と食品を利用する団体の交流会を Zoom を活用してオンラインでおこなった。

他団体と協働することで発見したこと

奈良県生協連と連携し、大学生に食品を提供する「若者応援プロジェクト」を実施した。生協連の構成団体の大学生協が大学生の生活状況やニーズを確認。飲食業や観光業は新型コロナの影響を大きく受けており、アルバイトのシフトが減ったり、続けられなくなるなど、大学生の厳しい生活を伺うことができた。フードバンク奈良だけでは実施が難しい事業を、奈良県生協連、大学生協と連携することで実現できた。

活動において生協が担った具体的な役割

フードバンク奈良の食品の保管と活動場所として、市民生活協同組合ならコープの施設の一部を無償で貸して頂いている。ならコープの共同購入のキャンセル品を提供頂いているほか、県内 10 店舗で毎月、フードドライブを実施して頂いている。ならコープ理事会や学習会でフードバンク活動の紹介をさせて頂いた。大学生を支援する「若者応援プロジェクト」を、奈良県生協連と奈良女子大、奈良教育大の大学生協などと連携して実施した。

成果として評価できる点

CO･OP共済の助成金を活用し、コロナの影響で昨年度は実施できなかった交流会を開催した。食品を寄付頂いている企業・団体と、フードバンクから食品を提供しているこども食堂や社会福祉協議会などとオンライン会議システムを用いて交流を図った。食品を寄付頂いている企業として、ならコープ様にもその取組を発表して頂いたほか、JA ならけん様や社内でフードドライブを実施して下さっている企業様にも取組を発表して頂いた。参加された団体からは、食品を寄付している企業の考えを知ることができて良かったというご意見や、他団体がどのように食品を利用しているかなどを知ることができたなどのご意見を頂き、今後につなげることができた。

将来イメージ

新型コロナが経済や雇用に影響を与えており、生活が厳しくなったという人が増えている。社会福祉協議会などが食品を支援しており、そうした団体にフードバンクから食品を提供するニーズが高まっている。しかしながら、食品企業からの寄付は伸び悩んでおり、今後は食品企業へのアプローチを進めていきたい。子育て家庭や大学生への食品を支援する仕組みはすすめてられているが、高齢者などに対する関わりは低い。また、ホームレスへの支援の依頼が入るようになったが、奈良県内にはホームレス支援団体がない。ホームレス対策を含め、食にまつわる様々な課題解決につながる活動を続けていきたい。

コーすけ誕生 10周年
おめでとう！

われらが「コーすけ」はクマの生協職員として 2012 年に誕生し、
CO･OP 共済とともに、加入者の「明日のくらし」をささえあって、10 年！
本頁では、その頑張りと栄誉をたたえ、記念特集を掲載します。

これを知っていれば、あなたも立派なコーすけファン！コーすけにまつわるクイズ 5 題！

【コーすけクイズ 5 題！】

① **コーすけの誕生日はいつ？**

② **コーすけのしっぽの形は何？**

③ **コーすけのログセ（決まり文句）は何？**

④ **コーすけがうるうるしてしまうのはどんな時？**

⑤ **コーすけのミッション（使命）は何？**

答えはこの冊子内にあります。

コーすけ誕生 10 周年を機に！思い出アルバムにぜひご参加ください

CO･OP 共済オフィシャルホームページのコーすけブランドサイトには「コーすけの思い出アルバム」があります。

コーすけ誕生 10 周年の記念に、ぜひコーすけとの写真を投稿してください。おまちしています。

■サイト

コーすけとCO･OP共済：　https://cosuke.coopkyosai.coop/

コーすけの思い出アルバム：https://cosuke.coopkyosai.coop/album/index.html

テーマ

2

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

愛媛医療生協　共同農園「レインボーファーム」

活動名　「健康づくり」活動の輪が広がり、「地域に役立つ共同農園づくり」にステップアップしたい

活動のきっかけ

愛媛医療生協の「健康づくり活動」のひとつとして、家に閉じこもりがちな高齢者に、農園活動を通じて「いきいきと生きられる」場づくりとして位置付けて、7年前に活動をスタートしました。同時に、この活動が、地域の諸団体との提携で、会員には、「やりがいのある」活動に、提携団体には、「喜ばれる」活動にできればと考えました。

協働した団体

◎愛媛医療生協
◎えひめNPO311
◎三葉幼稚園
◎共同作業所「なかよし村」

活動内容概要

8050問題が話題になる中、家に閉じこもりがちな高齢者に、「火曜市」の野菜づくりという農園活動を通じて、「生き生きとした暮らしづくりの場」と併せて「健康づくり」につなげる活動をしています。同時に、共同農園という組織と運営で、地域の諸団体と「ふれあい」、「提携」をつくり、社会への役立ち、会員の「やりがいと誇り」が持てる活動をしています。

他団体と協働することで発見したこと

レインボーファームの活動は、この6年間休むことなく、継続した活動となってきており、会員の広がりなど「健康づくり活動」の役割を当初の想定どおりに担ってきています。また、地域の諸団体と提携した活動は、提携先にも「喜ばれる活動」となり、そのことが会員の「やりがい」につながってきていることを実感しています。

活動において生協が担った具体的な役割

地域事業課を担当窓口にして、機関紙なども利用して組合員への農園活動の紹介、会員参加の呼びかけ、「火曜市」への病院敷地の利用とサポート、コピー、ラミネートなど事務用品の使用許可などのサポートをおこなっています。

成果として評価できる点

レインボーファームの活動がスタートして以来、会員を拡大しながら活動を継続しており、「健康づくり活動」の役割を当初の想定より担ってきています。また、地域の諸団体と提携した活動は、提携先にも「喜ばれる活動」となり、そのことが会員の「やりがい」につながってきています。こうした活動が愛媛医療生協のステイタスアップにつながってきているものと思います。

将来イメージ

コープ共済連の助成を受け、農園のインフラ整備ができてきており、また、運営の方法、内容、スケジュール、スタイルなど確立もできてきています。こうした到達を踏まえ、さらに会員の広がり、新たな地域との提携の広がり、後継者育成などの運営体制の強化などで、継続的な活動となり、設立の目的、役割を担っていければと思います。

福井県民生活協同組合②

活動名　福井県協同組合連絡会　連携事業フードバンク・フードドライブ

活動のきっかけ

福井県民生協として 2014 年よりフードバンク活動に取り組み、生活困窮者のために社協や自立支援センターに食料支援をしてきたこと。2019 年からは店舗でフードドライブ活動に取り組み、地域の子ども食堂や社協に提供してきたこと。コロナ禍で困っている人が増えるなか、食品を提供する事業者を広げるために、福井県協同組合連絡会の連携事業として、フードバンク・ドライブの協同での取り組みを提案した。

協働した団体

◎福井県協同組合連絡会（JA 福井県中央会）

活動内容概要

2021 年度年 2 回 6 月・12 月の実施を協同組合連絡会の担当者会議で協議。6 月は JA、漁連、森連、生協連の職員にフードドライブを呼びかけ、地域の子ども食堂に配付。12 月職員のフードドライブ実施と併せて、コロナ禍で困窮する県内 5 大学の学生 600 人に、生協・JA・漁連から米・缶詰・カップ麺・レトルト食品を低価格で購入手配して大学を通じて贈呈し、後にお礼のメッセージが多数寄せられた。マスメディアでも大きく取り上げられた。

他団体と協働することで発見したこと

各協同組合職員に呼びかけたフードドライブでは予想以上に多くの食品が寄せられて、関心の高さがうかがえた。
県外から福井にきてコロナ禍でアルバイトもできず生活に困窮している学生が非常に多くいることを実感した。
JA グループの福井パールライスが SDGs の視点から精米時に発生する余剰米を一定無償提供が可能であること。

活動において生協が担った具体的な役割

- 職員から集めたフードドライブ食品の集約、希望団体を募るコーディネイト、子ども食堂へのお届け。
- 県内 5 大学の希望の集約。JA、漁連、県民生協への商品注文と入荷、大学別仕分け、トラックでの運搬。福井大学、福井工業大学での贈呈式の調整。

成果として評価できる点

- 各協同組合職員からフードドライブ 2 回の実施で、合計 3,274 点の食品が寄せられ、子ども食堂など 16 団体に提供することができた。
- 福井県内 5 大学 600 人の学生に対して、12 月年末タイムリーな時期に食料品を提供して、学生から大変喜ばれた。福井新聞や県民福井、NHK 福井の取材を受け地域に紹介された。
- 新たな食品提供事業者として JA グループの福井パールライス株式会社とのつながりができ、今後の定期的なフードバンク・ドライブ活動につなぐことができた。

将来イメージ

福井県協同組合連絡会の連携事業の一つとして、フードバンク・ドライブ活動を継続し、福井県における協同組合の認知度向上、地域へのお役立ちにつなげていきたい。
現在は福井県民生協ハーツ・きらめき 12 ヵ所でのフードドライブであるが、JA グループの A コープでもフードドライブが実施できるよう呼びかけをすすめたい。

みやぎ生活協同組合

活動名 健康的な暮らしを創る担い手づくりと元気な高齢者を増やす取り組み

活動のきっかけ

高齢者が増える社会状況の中で特に男性はなかなかきっかけがないと地域の中での関わりを作ることができにくい状況があります。このような状況は一人暮らしでの孤立や引きこもりなど見過ごせない社会課題につながります。気軽な運動を通して住民同士の学び合いや教えあいの場づくりをおこない、地域で健康的に暮らしを続けていくことが必要であると考えました。

協働した団体

◎一般社団法人りぷらす

活動内容概要

1. 「健幸らくらくフィットネス」の開催 5 回（宮城県内 2 地域で各 2 回、福島で 1 回実施）
2. 「きらきら健幸サポーター養成講座」の開催（宮城県内 2 地域で開催）
   ＊新型コロナウイルス感染症拡大の状況から仙台市内での養成講座が 1 日延期の状態。
3. サポーターの活動拡大として、きらきら健幸サポーターの活動を拡げ、メンバー（組合員）へ健幸体操を普及。
4. サポーター同士の交流とフォロー研修各 1 回（コロナ拡大により次年度へ延期）

他団体と協働することで発見したこと

協働団体の視点や対応の中で、参加者への声掛けやコミュニケーションの中で言葉や悩みを引き出している様子は、専門家ならではのスキルとして、参考になりました。また、コロナ禍における高齢者の意識や悩みなどをアンケートで確認したところ、今後の活動でのニーズであることがわかりました。

活動において生協が担った具体的な役割

1. 地域状況の把握
2. 取り組みの広報
3. 開催会場の設定
4. 地域で健幸体操の依頼があった際、きらきら健康サポーターへのコーディネート

成果として評価できる点

1. コロナ禍において、外出もままならず・集まることも困難な状況の中で自分の健康に不安も抱えている悩みがアンケートから把握できました。健幸体操を学び、地域の人々に向けて場を作ることを始めたサポーターがあり、当初の目的を達成していると評価できます。
2. 「健幸らくらくフィットネス」を、宮城のみならず福島の特に高齢者の多い地域で開催をしました。年代も宮城よりも高い状況ではありましたが、やる気がある参加者で大変喜ばれた状況でした。
3. 昨年度サポーターとなった方に、今年度の養成講座に参加いただき、プログラムを手伝ってもらったり、受講生のサポートをしてもらいながら、実践力アップにつなげました。

将来イメージ

1. きらきら健幸サポーターが地域に増え、自分の住む地域で健康づくりができる場や、活躍の機会が醸成されている。
2. 当生協の店舗のオープンスペースで、サポーターによる健康相談や体操などを行うヘルスステーションが開設され、組合員や住民の交流が図られる。
3. 地域の中で高齢者の孤立対策のひとつとして、健幸フィットネスの場が拡がる。

津山アルツハイマーデー実行委員会

活動名　津山　世界アルツハイマーデー認知症理解・啓発活動

活動のきっかけ

多くの方に認知症について理解してもらう方法を検討している中で、津山市地域包括支援センターだけの考えでは十分ではなく、多方面の団体のアイディアを取り入れた取り組みができたらよいのではと感じるようになった。各方面からの認知症に関するアイディアを認知症の理解啓発、支援に活かしていこうとの思いを抱いた為。

活動内容概要

認知症サポーター養成講座の開催。（認知症を理解して啓発活動をおこなっていく為に、まず協同する団体に認知症サポーター養成講座を開催）理解啓発の為のＴシャツを作成し、各団体、個人に９月のアルツハイマー月間に津山をオレンジ色に染めてもらえるように働きかけた。また、オレンジ色の物を身に着けて歩くオレンジウォーク、津山市内での街頭啓発をおこなった。認知症に関する映画鑑賞会を行い、幅広い世代にも認知症に関心を持ってもらい、認知症の理解が深まるように働きかけた。認知症予防講座（コープ林田店）の実施。

協働した団体

◎おかやまコープ美作エリア
◎津山市民生児童委員連合会
◎津山認知症の人と家族の会（おあしすの会）
◎オレンジカフェ　吉井川
◎加茂タクシー
◎みまさか認知症疾患医療センター
◎日本認知症グループホーム協会
◎認知症対応型通所介護事業所　じーちゃん・ばーちゃんのお家
◎津山信用金庫
◎臼井茶店
◎認知症キャラバン・メイト
◎美作大学生活科学部　社会福祉学科
◎学校法人美作学園　岡山県美作高等学校
◎協同組合　津山一番街
◎津山市役所　高齢介護課
◎津山市社会福祉協議会
◎津山市社会福祉協議会　津山市地域包括支援センター

他団体と協働することで発見したこと

ライトアップや展示などで他団体の協力を得ることができた。今回、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、９月に予定していた事業は延期となったが、多くの市民や企業の皆さんがＴシャツなど、オレンジ色の物を身に着けていただき、啓発活動がより広まったと感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

認知症サポーター養成講座（会場：コープ林田）の企画と受講者募集し、身近で安心なコープ林田店で認知症の街頭啓発と認知症予防講座を実施した。映画鑑賞会、オレンジウォークなどのイベントの開催、コープ林田及び宅配担当者がオレンジ色の物を着用し認知症支援 PR を行なった。同じ津山市で生活する住民同士でお互いを助け合うため、認知症を理解し、支援することを積極的に伝える役割を担ってもらった。

成果として評価できる点

９月のアルツハイマーデー月間は認知症の支援を意味するオレンジ色で津山を染めようといった取り組みをして、３年目になる。今年は、例年以上にオレンジ色に染めることができた。活動を継続してきたことで、協力団体や協力者が増えてきたことを実感できた。

将来イメージ

幅広い世代に対して、認知症になっても希望をもって自分らしく暮らし続けられる町を作ろうという思いを共有できる取り組み継続していく。例えば、アルツハイマー月間である９月に、認知症啓発のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育て咲かせる取り組みなどを考えている。実行委員会を通して協力者を増やしていくつながりや、新たな取り組みについても意見を伺い、実施していきたいと考えている。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸

活動名 がん啓発イベント

活動のきっかけ

がん体験者（サバイバー）と支援者等が一堂に会し、がんと向き合うサバイバーの勇気を称え、命のあることを喜び合い、生きる自信と希望を得るチャンスと場所を提供するため。

協働した団体

◎生活協同組合コープこうべ

活動内容概要

活動概要：年１回のがん患者支援のチャリティイベント（リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸）開催。
活動実績：リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸開催（過去７回開催）。
開催に向けて毎月１～２回の定例会実施。
その他、がんに関わるイベントへの参加、協力、募金活動等
新型コロナウイルス対策として、一昨年よりオンライン上で会場の状況を生配信し、現地＋オンラインでのハイブリッド型の開催をすることができました。

他団体と協働することで発見したこと

エリア内のコープにて当イベントのチラシを配架させていただくことで、地域に根差している方々への認知度を上げることができた。
また、新型コロナウイルスの影響があり実施はできなかったが、コープこうべからのご提案でエリア内のコープにて当イベントの啓発イベント（ルミナリエバッグの作成）を予定していた。
今年度の経験を踏まえ、来年度以降にイベント啓発イベントを継続的に実施できたらと考えている。

成果として評価できる点

2020 年度
　実行員：約 15 ～ 20 名
　来場者：300 名
　オンライン参加者：150 名
2021 年度
　実行員：約 10 ～ 15 名
　来場者：300 名
　オンライン参加者：150 名

- 新型コロナウイルスの影響もあり協賛金、ご寄付が例年よりも少なくなってしまったが、コープ助成金の活用、会場内の規模の縮小、アプリでの寄付等を実施することで経費の見直し、削減を行うことで、規模を縮小しても開催することが出来るという事が実証できた。
- 昨年も会場＋オンラインでのハイブリッド型開催をしたが、通信機器の不具合が多かった。

その点を見直し、機材を新調した結果通信の不具合が少なくなった。

活動において生協が担った具体的な役割

月に１度開催している定例会にコープこうべご担当者にご参加いただき、当イベントの開催に向けての議論に積極的にご参加いただきました。また、当日もご参加頂きブースにてご来場者へのご対応等、スタッフと同じ役割を果たしていただきました。
また、当日にコープこうべご担当者の別の方もご来場いただき会場のご案内等をさせていただき当活動の認識をより広めていただきました。

将来イメージ

コープこうべと協働することでも感じたように、様々な団体と協働することで地域の方々の当イベントの認知度をあげ、がん啓発をより広められるような活動をしていくことを目標としております。
その結果イベントのご来場者も今よりも多く、イベントブースも拡大できたらと思っております。
一昨年度より始めたオンライン配信においても改善を積み重ね、より広い範囲に広めていけたらと思っております。
また、現在は神戸市内での活動がメインとなっておりますが、神戸以西の兵庫県エリアにも活動を拡大していき県規模で当活動が広まっていけたらと考えております。

公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を

活動名　沖縄の文化を通して自信と自立を促すプロジェクトパート２

活動のきっかけ

昨年の助成事業に引き続き、テーマを進化させ、今年はより多くの属性の皆さんとの協働を目指して実施する運びとなった。コロナ禍においても、実施不可になる活動があることも見越して、活動形態や実施方法等、内容を工夫していくことで、より多くの活動を展開し、病気のありなしや属性に関係なく、偏見なく「ともに生きる」ことを目標に実施した。

協働した団体

◎生活協同組合コープおきなわ
◎社会医療法人敬愛会　中頭病院

活動内容概要

沖縄在住の難病を持つ子どもと家族が、コープ組合員の皆さまや地域の皆さまとともに、乗馬やもずく収穫体験、塩作り体験、黄金芋掘り、麦踏みなど、様々な活動を地域の様々な立場の子どもたちとの交流を持ちながら実施した。また、コープ組合員の家族、子どもたちと一緒に活動の中の役割を決めて、それぞれができる仕事をする形態で活動を実施した。また、オンラインでの活動も並行して実施することができて良い機会となった。

他団体と協働することで発見したこと

通常、自組織で活動を実施する場合は、流れ、体制が決まっていることが多く、前程条件が決まっていることが多いのに比べて、コープの組合員の皆様他、他団体との皆様とプログラムの立案等をしていくことで、視座の違いがわかり、大変大きな気づきとなった。また、沖縄の言葉を話す高齢の方が加わってくれたことで、「言葉の文化」を肌で感じることができ、今後のプログラム開発にも役立った。

活動において生協が担った具体的な役割

今年度は、コープの組合員に活動そのものの立案から入っていただき、地域のコープの店舗で活動の案内をしてもらうなど、広報としての役割、活動時のボランティアへの参画など、積極的な関わりをしていただいた。但し、コロナの関係で、本部の方たちは、活動や関わりが制限されていたため、コープおきなわの広報との協働等は難しかった。

成果として評価できる点

文化や伝統ということ以外に、コープの皆さんとの立案等のディスカッションの中から、もちろん、伝統や文化も大切だけれど、その体験だけでなく、難病の子どもたちとの関わりやサポート、遊びを通して、自分たちにもできることがあることを認識することが大切であるということや、地域での連携や継続的な関わりも重要視したいとの意見があったことで、病気のありなしに関係なく、ボランティア的な関わり、場面を多く作ったことは、非常に効果的であり、成果として誇れるものとなった。また、コープの組合員の母たちだけでなく、父たちも参加してくれ、病児家族の様子を見たことで、父たちの行動変容があったことも報告され、嬉しい展開となった。

将来イメージ

コープの組合員の皆さんのように、地域での活動をしていらっしゃる団体の皆さんやコミュニティは、相互扶助の考えが行き届いている地盤があるので、今後は更に、ジュニアボランティア的な活動として、年齢が小さいうちから、病児や障がいがある子どもや家族に実際に関わって、様々な気づきを得ていくことや、その経験を通して、今回のように、「自信」を持つこと、一人ではなく、人を頼ってもよいということを実感できるように、児童向けや高齢者向けの研修等も実施していき、病児や兄弟児にも、それぞれの役割があり、病児の母たちも、活躍できるような居場所を作っていかれるように、リサーチを兼ねた活動を継続していきたいと強く願っている。

NPO 法人 DV 対策センター

活動名 DV・虐待被害者及び母子家庭等貧困世帯への食とカウンセリングと教育の支援及び DV・虐待・貧困の連鎖を防止するための啓発講座の開催

活動のきっかけ

団体設立当初より、DV 被害者向けシェルターを運営しておりましたが、自立した後も貧困という課題と向き合わなければならない母子が多いため、食品配付会をおこなってきました。DV・虐待がある中、避難できない人が多いため早めの相談・避難の大切さを啓発したいと感じました。また、食品を渡すだけでなく、カウンセリングや子ども向けのイベントの開催など、母子家庭の生活が少しでも豊かなものになるように、活動しました。

協働した団体

◎東都生活協同組合

活動内容概要

食品配付会とセミナーを開催しました。2 月は、コロナウイルス蔓延防止の時期のために、食品配付とセミナーのみの開催とし、8 月、11 月、3 月は、子ども向けイベントとママ向けカウンセリング、弁護士無料相談などを行いました。セミナーは、8 月は、「ネガティブマインドをポジティブに代える秘訣」、11 月は、「コロナ禍における男女関係の変化と対策」、2 月は、「笑顔が増える子育ての秘訣」、3 月は、「大人の発達障害を学ぶ」、を開催しました。

他団体と協働することで発見したこと	活動において生協が担った具体的な役割
東都生協さんの予備野菜や提供商品をいただき配付させていただいたことで、母子家庭および DV 等で避難している世帯の方々へ、より豊かな食材をお届けすることができました。東都生協さんのお野菜は新鮮で大変好評でした。	予備野菜などの提供・配達・当日の手伝いなど
成果として評価できる点	**将来イメージ**
わざわざ拠点まで運んでくださり、準備などのお手伝いをしてくださいました。当日も野菜のお渡しなどをしていただき、大変助かりました。	多くの会員さんに寄付を募って、あつまった品を、母子家庭等貧困世帯の方に使っていただけるような仕組みを作っていきたいと思います。

生活協同組合パルシステム千葉（☆）

活動名　習志野市多世代が交流し、地域で子どもの育ちを支援する取り組み

活動のきっかけ

介護予防体操の定期開催を実現するため、習志野市社会福祉協議会から東習志野高齢者相談センター（地域包括）を紹介されました。子どもへの支援では、習志野市生活困窮世帯向け学習支援を受託しているワーカーズコープちばに、小学生向け学習支援について相談したことから、連携が始まりました。そこから習志野市内のいくつかの子ども食堂と知りあい、子ども食堂への食料支援や合同でのフードパントリーの活動をおこないました。

協働した団体

◎社会福祉法人八千代美香会ブレーメン習志野
◎ワーカーズコープちば

活動内容概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、１年を通じて習志野市における介護予防体操「笑学校」を開催することは出来ませんでした。一方で昨年から続く生活困窮者への食料支援の取り組みとしては、習志野多世代交流連携会議メンバーの子ども食堂と一緒に、夏休みと冬休みの期間にフードパントリーを開催しました。昨年実施した学習支援は、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し開催を見送りました。

他団体と協働することで発見したこと

今年度は他団体と協働して地域の企業、小学校、行政へ子ども食堂への支援を一緒に働きかけることができました。特に、子ども食堂の方々と小学校へ訪問した際は、地域の子どもたちの現状について意見交換したことで、地域の課題に対して今後どのようなことができるのか、具体的なイメージを持つことができました。子ども食堂への支援については子ども食堂の方々と一緒に協働することで、行政に協力を働きかけやすくなりました。

活動において生協が担った具体的な役割

具体的な役割としては、こども食堂主催のフードパントリーの取り組みに対する食料支援、広報協力、習志野多世代連携会議での事務局機能を担いました。その他、子ども食堂への支援協力を呼びかける際、学校や行政への働きかけに協力し、子ども食堂同士の関係構築に尽力しました。

成果として評価できる点

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、定期的に連携会議を開催し、今年度の活動を決めたり、CO･OP共済地域ささえあい助成終了後の次年度以降のあり方について、継続的に協議することができました。協議の結果、連携会議メンバーの子ども食堂で､次年度から「習志野子ども食堂ネットワーク」として活動を継続し､当生協は事務局からサポート側に回ることが決まりました。今後は地域の子ども食堂の輪が広がり、他団体や行政などと協力して地域の課題解決に貢献できることを目指します。また、自組織の組合員活動だけでなく、他団体と協働することで、地域の課題について多くの組合員が理解を示し協力してくれることに気づけました。

将来イメージ

連携会議で協働した地域の子ども食堂は、他地域にあるような子ども食堂ネットワークとして、これまでの活動をこれからも続けていける見通しがたちました。また、コロナの影響でこの間活動ができなかった介護予防体操については、東習志野高齢者相談センター（地域包括）より、これからも地域の拠点の一つとして活動していただきたいとの依頼をうけ、コロナが収束次第、地域の方々と組合員と一緒に、介護予防体操を続けていく予定です。学習支援については、連携会議メンバーの子ども食堂の協力により、学習支援の実施場所の貸し出しや学習支援を行うボランティア講師（学生）派遣の目途がつきました。

特定非営利活動法人　あなただけの乳がんではなく（☆）

活動名　乳がん啓発イベント、乳がん検診受診推進

活動のきっかけ

2017 年 11 月、コープ組合員の依頼によりコープ指宿店で乳がん啓発セミナーを実施。
コープかごしま担当者と連携を取り、他店舗での展開を始める。

協働した団体

◎生活協同組合コープかごしま
◎社会医療法人博愛会相良病院

活動内容概要

1、　コープ指宿店、かのや店で乳がん啓発ブースによる啓発を行った。
　　イベント内容：①乳がん啓発動画を視聴していただく
　　②乳がん啓発パンフレットの配布
　　③乳房自己チェック法の紹介・パネル展示
　　④共済コーナーで「がんに備えるお金の情報」を伝える
2、　イベントと同時に乳がん検診車による乳がん検診実施
　　受診者アンケートを実施する

他団体と協働することで発見したこと

共同購入利用者へのチラシ配布、店舗のポスター等で、地域への広報が十分にできた。予約制の検診車での検診は待ち時間が少なく、身近な場所で受けられる検診は利用者に好評であった。指宿店での検診は助成事業以前から継続しており、活動継続を希望する意見が多く寄せられた。

活動において生協が担った具体的な役割

イベント、乳がん検診実施店舗との調整
乳がん検診広報
乳がん検診申込受付、申込者名簿作成
イベント、乳がん検診会場提供、準備、検診者アンケート実施

成果として評価できる点

新型コロナウィルス蔓延防止措置の適用により、当初の予定を 1 か月延期しての実施となったが、検診受診者への連絡等はスムーズに行えた。2 店舗の申し込み 72 名、検診受診者 69 名。
検診受診者アンケート回答者の 49% が 30 代以下の方で、市町村の検診費補助のない 30 代以下の方の受診の機会になったことがわかる。アンケート結果では「乳がん検診を何でお知りになりましたか」という質問に「共同購入のチラシ」と答えた方が 69%、「店頭のポスター」が 18%、「生協スタッフ・運営委員」が 13%だった。生協との共働で地域への広報が十分にできた。
共済コーナーで共済を推進できた。共済ブースに立ち寄った方に共済についてのお問い合わせをいただき、対応できた。

将来イメージ

県内各地区の生協店舗やセンターで乳がん啓発イベント・啓発セミナー・乳がん検診を実施し、乳がんの早期発見、早期治療の重要性を広く周知し、多くの方に乳がん検診受診の機会を提供していきたい。
鹿児島県民が乳がんの正しい知識を学び、検診の重要性を理解して乳がん検診を受診し、早期発見、早期治療につながることを期待する。

テーマ

3

女性と子どもが生き生きする

生活協同組合コープ自然派奈良

活動名　きゅうしょくカンガループロジェクト（給食を考えるプロジェクト）

活動のきっかけ

奈良では農業人口・面積が減少し、食べ物が種から口に入るまでの過程を知る機会が減っています。こどもたちの体験不足、保護者の知識不足、農家のモチベーション不足などの課題を「給食」を核に解決していきたいと活動をはじめました。

協働した団体

◎農民運動奈良県連絡会（奈良県農民連）
◎奈良市の給食のおはなし

活動内容概要

過去 2 年間、地域ささえあい助成を受けて関係各所へ取材を重ね、「奈良市の給食ができるまで」の冊子を作成し、市内小学生へ配布しました。そこで得た知識をもとに行政と協議を重ね、奈良市の学校給食における有機米導入議論の一助となることができました。また、この活動を通した仲間づくりの結果、実際に小学生に畑を体験してもらう機会をつくることができました。今年度はより小学生に伝わる内容を意識して冊子を作成しました。

他団体と協働することで発見したこと

今年度は、私たちの活動を知った NPO 法人奈良ストップ温暖化の会にお声がけいただき、小学生に畑体験をしてもらう機会をつくることができました。季節の野菜を育て、食べる体験をすることで、食と環境、身近な環境と地球環境のつながりを感じる「とびだせ ECO キッズ！」という取り組みです。昨今、過剰にお膳立てされ限定的な体験しかできない場合が多い中、「失敗を体験する」こともできる貴重な場をつくることができました。

活動において生協が担った具体的な役割

イベント企画運営補助、他団体との連絡調整、行政との仲介、記録・広報・成果物作成補助を担当しました。また、他市の事例など情報収集も担当しました。また、「オーガニック給食プロジェクト in 関西 2021」などのイベントでの事例紹介、「オーガニック給食マップ」などのサイトへの情報提供をおこないました。

成果として評価できる点

これまでの取材で得た知識をもとに行政と協議を重ね、奈良市の学校給食における有機米導入議論の一助となることができました。また、NPO 法人奈良ストップ温暖化の会が企画運営する「とびだせ ECO キッズ！」という取り組みに参画し、小学生が「失敗を体験する」こともできる貴重な農体験の場をつくることができました。この取り組みでは、地産地消や有機農業が気候変動対策としても重要なこと、そのために学校給食には大きな果たせる役割があることなどを伝えることができ、実際の畑体験と、冊子に掲載されている知識を結び付けて理解してもらうことができました。冊子もより子どもたちに伝わる内容で作成しましたので、反応が楽しみです。

将来イメージ

国は、気候変動、生産者の減少、地域コミュニティの衰退、食料の安定供給などに対策すべく「みどりの食料システム戦略」を発表しました。奈良で学校給食を核とした有機農業・地産地消を広げていくことは、この流れに沿うものです。現在奈良市では、市長が学校給食への有機米導入を公約に掲げていますので、実現に向けて協力していきたいです。また、橿原市では地場産農産物のより一層の活用に力を入れていますので、こちらにも協力していきたいです。そして、このような取り組みを他の市町村にも広げ、子どもたちの健康と食育、地域の農業の持続発展、環境保全の実現をめざしていきます。

公益財団法人ふきのとう文庫

活動名 「すべての子どもに本の喜びを！」を伝える

活動のきっかけ

「布の本」は当文庫が作製する独自な本であり、それをふだん見たり触ったりできない地域の子どもたちに親しんでもらいたいと考えた。

協働した団体

◎コープさっぽろ

活動内容概要

布の本の作製については、概ね予定通りの作品数ができたが、今年度はコロナ感染防止の観点から、コープさっぽろの施設（トドックステーション）内で閲覧、貸し付けをおこなうことができなくなった。

他団体と協働することで発見したこと	活動において生協が担った具体的な役割
コープさっぽろとの協働ができなかったが、来年度からは、市内全域にあるトドックステーションで順次布の本を見てもらうことにしたい。200 万都市札幌として、多くの場所で「布の本」が読めることで子どもたちの本に対する造詣が深まると思っている。	多くの市民が集まる事ができる場所の提供をしていただくことで、唯一のふきのとう子ども図書館の支部的な役割を担って貰える。
成果として評価できる点	**将来イメージ**
今年度未実施なので、評価できない。	令和 4 年度は少なくとも四半期ごとに場所を移しながらトドックステーション利用で移動図書館的なものにしていく。

東吉野こどもと楽しむ会

活動名 多機能コミュニティスペース「つくばねっこ村」のコロナ対策強化でウィズコロナを乗り切ろう！

活動のきっかけ

過疎の山間部の東吉野村では公園や児童館もなく、またこども会などの交流の場も一切ありません。そのため、こどもたちが外で遊んでいる様子をみることがほとんどありません。村内でのびのびと楽しみながら交流し、村のよいところを吸収できるよう、本当の意味でふるさととなるようなこどもの時の体験をしてほしいと子育て世帯の保護者が中心となり活動を始めました。

協働した団体

◎市民生活協同組合ならコープ
◎東吉野水力発電株式会社

活動内容概要

こども食堂を兼ね備えた多機能コミュニティスペースです。川遊びや外遊びをはじめ、田舎ならではの体験ができるワークショップや、村の人たちとの交流、村外の方々との交流をはかる場となっております。村内で活動している小水力発電所の事務所としても利用しているため、コープの組合員さんや全国から見学者も多数来てくれています。村の中の唯一のこどもを中心としたコミュニティスペースです。

他団体と協働することで発見したこと

コロナが大々的に流行しはじめた場合、他団体と協働するということは動きにくい一面もありましたが悩みを聞いてくれたり、アドバイスをくれたり、一団体のみでやっていたら落ち込んでやめてしまいそうなときも力を与えてくれたことにより活動をやめることなく（いったんは休止しましたが）再開することができました。考えの幅を広げてくれたり、資金面でも大変ありがたく感じました。

活動において生協が担った具体的な役割

ならコープの組合員さんと村内の交流ができるように見学ツアーを一緒に開催してくれたり、ワークショップを一緒に開催しました。また村内の他の団体との橋渡し役となってくれ、交流会を開いてくれたり、イベントを企画してくれました（コロナの大々的な流行により、中止となってしまった活動が多くありましたが……）。

成果として評価できる点

今年度は大々的なコロナの流行や協働団体のスタッフの体調不良、当団体のスタッフの入れ替わり、地域との関わりなどいろいろな問題があり落ち込んでしまい、活動自体は縮小してしまいましたが、問題点について話し合ったりする中で協働してくれる他団体との関係性を強めていくと同時に当団体の意義を再度確認することができました。そのため活動自体は縮小してしまいましたが、今まであまり目を向けてこなかった団体の問題点やあり方をなど次年度にむけ見直していくきっかけとなり、当団体にとっては非常によい一年となりました。

将来イメージ

食堂や商店として資金調達をしながら、地域交流、異世代交流、子どものたくましい心身作り、寺小屋、こどもの居場所の中心的場所として活動を続けていきたいと考えていましたが、この活動をしていた数年間でこの過疎化のすすんだ山間地域では残念ながら資金調達面でかなり厳しいということが分かりましたので、もう一度どのようなことができるのか、どのように継続が可能なのか問題点を改めながら再度すすんでいきたいです。ただ、活動自体はやめることのないようにすすんでいこうと決心しております。成長を見守ってくださるとうれしいです。

生活協同組合コープぐんま

活動名　ほっこりんの子ども食堂「ほっこり食堂」

活動のきっかけ

2014 年より、親子が一緒に遊べて学べる子育て応援イベントを開催してきた中で「子どもや地域の方々の居場所づくり」として「ほっこりんの子ども食堂　ほっこり食堂」を計画していました。2021 年より、子ども食堂を始めることができました。

協働した団体

◎ママボランティア　ほっこりん

活動内容概要

月に 1 度、第二日曜日に子ども食堂を開催しています。開催情報を、行政や社協の協力もあり地域の回覧板で年に 2 回お知らせしたり、会員さんに LINE を使ってお知らせしたりしています。予約していただき、当日テイクアウトか青空ランチとしてお庭で食事ができるようにしています。地域のお年寄り特製の竹馬や割りばし鉄砲やけん玉なども準備し地域のボランティアさんとの交流もみられます。

他団体と協働することで発見したこと

子ども食堂としてはスタートの年で、まずは周知することの難しさがありました。社会福祉協議会やコープぐんまからのアドバイスや他団体の活動事例などお聴きしとても参考になりました。来年度に向けて、他団体や企業とのお付き合いを増やしていきたいと思います。
活動の中では農業委員や農家を紹介していただいたりと、コープぐんまからの食材提供のほかに力強い仲間が増えました。

活動において生協が担った具体的な役割

コープぐんまより食材提供を受けて子ども食堂を開催しております。開催時の一番の不安が解消されています。子ども食堂開催時にも毎回参加していただき、食育に関する子供向けのブース出展や手が足りないところを助けていただいております。地域ささえあい助成金の情報も提供していただき活動に必要なものが揃えられました。地域で子ども食堂を立ち上げたいとの相談にものっていただきました。
地域ささえあい助成団体交流会にて他団体の活動を知りとても勉強になりました。

成果として評価できる点

地域の方々の年代の違うボランティアが増えました。
子ども食堂、居場所づくりとして、スタッフも利用者の方々とのコミュニケーションの大切さを感じました。
毎回、楽しみにしていてくれる人ができたこと。必要とされていること。
地域ぐるみの活動になってきていること。

将来イメージ

地域ぐるみの活動となり、人の集まる居場所づくり。

シングルず（香芝市母子寡婦福祉会）

活動名　ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場

活動のきっかけ

ひとり親世帯にとっては、経済状況による学習状況の格差があり、また子どもを塾に通わせたくても塾にかかる費用の負担が大きい。無料で学習ができる場があることで、学校の授業で分からない部分も、元教員や大学生といった指導経験や知識が豊富な方々から安心して学ぶことができる。また、同じ境遇の子ども同士が集まることで、子どもにとって自分の居場所になるなど、様々な心理的ストレスの軽減と孤独感の解消を目指している。

協働した団体

◎市民生活協同組合ならコープ
◎香芝市社会福祉協議会

活動内容概要

毎週土曜日 14:00 ～ 16:30 に勉強会を実施。学校の授業の復習や宿題などのサポートをおこない、個々の状況に応じて学べるよう支援している。異年齢のこどもが関わる中で、兄弟のような家庭的な雰囲気ができ、家以外でリラックスできる居場所となっている。また、長期にわたるコロナ禍で、子どもの心理面に気を配り、必要があればすぐに対応できるよう、カウンセラーとも連携を取り子どもの心のケアにも努めている。

他団体と協働することで発見したこと

ならコープとの協働では、子どもたちに学用品配付をし、学習意欲の向上がみられた。また、温かい支援により、コロナ禍での孤独感や休校による子どものストレス軽減にもつながり、子どもの心理的不安の解消に大きく関与した。更に、フードバンク奈良と社会福祉協議会との協働では、会員に食料品等を配り、長期にわたるコロナ禍の生活不安に悩まれる会員の支援や、様子を伺うことができた。

活動において生協が担った具体的な役割

ならコープ子どもの未来アクションと協働し、毎月のフードドライブ・文房具ドライブで預かった文房具をシングルずさんの「心を育む学びの広場」で子ども達に提供した。文房具は自由に取ってもらうようにした。子ども達が迷いながらも楽しそうに選び、早速使っている様子が伺えた。当日、ならコープ未来アクションアンバサダーは9名で伺い、教室の様子を見学させていただいた。アンバサダーとしても今後の取り組みの参考となる貴重な機会をいただけた。

成果として評価できる点

今年度も新型コロナウイルス再拡大によりやむなく中止となることも多かったが、実施方法を変えるなど熟考を重ねながら活動し、ひとり親世帯における孤立化の防止に役立った。更に、シングルず会員のグループラインを進め、コミュニケーションや情報共有などを円滑に実現できた。また、気づきにくいこどもの SOS にいち早く対応できるよう、民生委員の参加協力により地域で見守りを深める礎にもなった。コロナ禍で収入や将来の不安などで家にこもりがちになるひとり親世帯の親子に、ならコープの子どもの未来アクションによる学習用品配付など様々な活動をとおして安心感を与えることができた。

将来イメージ

ひとり親の世帯の多くは、収入による生活の不安、世帯の孤立、子どもの貧困、気づきにくい親子の SOS など、様々な問題を抱えています。本会は、そのようなひとり親世帯の悩みの相談や窓口となり、悩みを持つ会員をサポートできる環境を更に整えていきたい。そのためには、地域のつながりだけでなく他団体とのつながりや身近な支援者を増やし、本会の交流事業の開催と、子どもの貧困格差による学力低下を防ぐための学習支援を継続し、親子の生きがいと居場所づくりに引き続き取り組んでいきます。

一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡

活動名　子どもの睡眠教育およびメディア依存防止のための木工工作教室の実施事業

活動のきっかけ

コロナ禍の影響により子どもたちは家庭で長時間過ごすことが増えています。その結果、これまで以上にテレビやゲーム、スマートフォンと接することが増加し、その影響で生活習慣の乱れや睡眠不調が生じているとの報告があります。そのため、昼夜逆転等の生活リズムの乱れやメディア依存の予防につながるような取り組みが早急に必要であると感じたことが、本事業を実施しようと思ったきっかけです。

協働した団体

◎エフコープ生活協同組合

活動内容概要

昼夜逆転や生活リズムの乱れを来している、もしくはその傾向にある子ども（特に小・中・高校生）とその保護者を対象に、睡眠のメカニズムや眠りの持つ役割等を伝える子どもの睡眠教育を実施しました。また、メディア依存の予防の一環としてメディア以外の遊び（木片を組み合わせて作品を作る木工工作）の機会をつくることによって、メディア依存の未然防止を目的とする活動をおこないました。

他団体と協働することで発見したこと

今回、エフコープ生活協同組合と協働することによって、子どもの睡眠に関する知識やメディア依存の問題について、幅広く市民に周知・広報することができたと思います。また、学校などの公的機関とは異なる立場（民間団体）でメディア依存や不登校の予防対策に取り組んだことは、今後の公教育と民間団体とがコラボレーションした新たな子どもの生活支援の提案につながったと思います。

活動において生協が担った具体的な役割

エフコープ生活協同組合の方には、子どもの睡眠教育（オンライン講座）や子ども向けの木工工作教室の実施にあたって、広く組合員や関係者の方々に広報してもらう役割を担ってもらいました。また、子どもの睡眠教育（オンライン講座）の受講者の受付、Zoom の ID・パスコードの送付、アンケートの実施およびその集計などの役割を担ってもらいました。

成果として評価できる点

本事業を通じて、成長・発達途上にある子どもの睡眠について、その大切さを広く社会に発信し、啓発することができたと思います。また、子どもの睡眠教室に参加した保護者からは、「睡眠が成長に欠かすことのできない脳内ホルモンの分泌に大きく関係していることを初めて知った」、「記憶や学習などにも睡眠が関係していることを学ぶことができた」など、眠りのもつ役割やその重要性、さらには日頃の子育てに関してもとても参考になったとの感想が寄せられました。また、メディア依存を予防するための木工工作教室では、多くの子どもたちに参加してもらい、メディア以外の遊び（木を使った工作）の面白さを伝えることができたと思います。

将来イメージ

助成終了後は、さらに睡眠の大切さを伝えるべく、「子どもの睡眠アドバイザー養成講座」を実施していく予定です。現在、養成講座のカリキュラムとテキストの作成をおこなっているところです。今後は、子どもの睡眠教育を担う仲間を増やし、子どもの睡眠教育を担う人材育成をおこなっていきたいと思います。また、これからも継続して子どもの睡眠教育とメディア依存予防に関する啓蒙活動をおこなうことで、社会に向けて子どもの睡眠教育の重要さを伝えていく計画です。

がんばるもん実行委員会

活動名 学習支援。地域人材と学校と保護者を結ぶ。

活動のきっかけ

中学生の学習支援をしていた時に、小学生での基礎のつまずきが気になりました。中学生になってから心機一転、遡って復習しようとしても、部活動や基礎がわからないまますすむ学習に、諦めてしまう生徒も沢山いました。そこで、小学生で家庭での学習環境のままならない、その学年で履修するべきことを理解しないまま進級してしまいそうな児童を対象に、学習習慣をつけ、問題が解けた時の喜びを体感することを目的に、始めました。

協働した団体

◎生活協同組合コープこうべ

活動内容概要

毎週木曜日の放課後に、教室、もしくは学校の図書室で午後 3 時 30 分から 4 時 20 分まで学習します。今年度は、コロナ感染防止のため、2, 3, 4 年生を対象としました。一緒に勉強してくれる近所の方は 29 名登録があり、毎回 20 名以上の参加状況です。まず、本人の希望により漢字か算数のどちらから始めるかを決めます。一緒にその日の宿題を仕上げることを一番の目標としています。学期末には先生とボランティア全員で意見交換します。

他団体と協働することで発見したこと

私たちが活動の拠点としている学校という場所が、今、とても閉鎖的な空間になっていることをあらためて感じました。子どもたちが学校に来ている時間内で、基礎学力の補充を目指し、家庭では「宿題をしなさい」と言われないゆったりとした時間を過ごしてもらうこと、子どもたちの他の場所に通う負担を軽減するためには、もっと学校の開放が必要です。それは他の団体も望んでいることであり難しいことだと再確認しました。

活動において生協が担った具体的な役割

教育と地域の関わりをテーマとしたシンポジウムや勉強会の企画・運営や広報を連携して実施しました。また、放課後学習にボランティアとして職員が参加しています。普段の事業では接点をもちにくい、子育て世代や学校と交流が持てる貴重な機会をつくることができました。

成果として評価できる点

多聞の丘小学校は統合したばかりの新設校でした。新しい学校でも同じような形で実施できたことは、4 年間継続し、工夫を重ねてきた結果で、成果として評価できると考えています。今年度は、虹の賞もいただき、活動を多くの方に知っていただく機会になりました。やはり、「学校の教室を使わせてもらえるなら、子どもたちへの負担も少ないので、真似してやってみたい」との声が多く聞かれました。児童にとり、学校が終わった後の移動は、特に暑い夏や、雨の日に負担です。必要な支援を子どもの立場から見たメリットを最優先に考え、放課後の教室利用にこだわったことは、だからこそ、なかなか広まらないジレンマも抱えますが、良かったと思います。

将来イメージ

ボランティアスタッフの数が多いほど幅広い支援が可能になります。「教える」ことから「寄り添う」ことがもう一つの目的であることを理解してもらうことでボランティアスタッフにとっても達成感のある活動になっていくと考えます。寄り添うくらいならできると、学校近隣に住んでいる人に気軽に関わってもらえるような形を作りたいです。支援を必要とする児童はどこの学校にも存在すると考えます。この活動が、市内に広く認知され、学校の抱える多忙問題を助ける上での市民、住民理解に繋がるための一端を担う役割を果たしたいと考えています。ノウハウは確立できたので、核となるコーディネート役の養成にも力をいれていきます。

殿川の活性化に取り組もう会

活動名　殿川資源を活用した自然体験を通した親子こどもアトリエや音楽教室・コミュニティースペースつくり

活動のきっかけ

活動地である吉野町殿川集落は、過疎化、高齢化がすすんでいる。山林や田畑は手入れがなされないと良好な環境を維持できないし、家も人が住まないとたちまち傷んでくる。メンバーは地元で育った若手（動ける人で年齢は問わない）と移住者である。本会の始まりは大学の地域連携による学生受け入れであった。その後は、集落の活性化のために半公共的なこと（空き家の片づけや移住のお手伝い、畑作業の支援など）をおこなっている。

協働した団体

◎市民生活協同組合ならコープ
◎殿川自治会
◎中竜門地区自治協議会

活動内容概要

殿川資源の活用として国内外で活躍するアーティストが改修した古民家に親子こどもアトリエや音楽教室をつくり、イベントを企画発信する。都市部や自宅では経験できない殿川特有の山林立地を生かした自然体験やダイナミックな＜ものつくり＞を体験してもらい親子関係の新たな発見につなげ、村外県外の子育て世代との交流も図り子ども達の芸術教育の発展と新たな暮らしのコミュニティ発展の受け皿をつくり子育ての活性化を図る。

他団体と協働することで発見したこと

地域団体（地域自治協議会）は高齢者が大半を占める上女性の参画がたいへん少ないこと。また本会のように若手の会もなく、新規の企画や地域の将来構想を描ける人に至ってはことさら少ないこと。行政職員が手がけているような地域のプランニングやコーディネートができる人材が不足していること。

活動において生協が担った具体的な役割

イベントのチラシを店頭配布し、組合員さんへ周知いただいた。また、2021 年 7 月にはならコープ担当者（吉野共生プロジェクトの事務局でもある）が殿川へ来られ、その時に得た知見を持ち帰り、本会を吉野共生プロジェクトの一員とすること、プロジェクトでは今後奈良県南部東部（過疎地であり山間部である）への移住支援に取り組むこと、の 2 点が同年 12 月の同プロジェクト推進委員会で承認された。

成果として評価できる点

これまで訪れることがなかった属性である子どもとその親世代が多数訪れ、丸 1 日過ごせるような地域資源（自然）があると再確認できたこと。「何もない」山の中の集落でもコンテンツ次第で人が来てくれると分かった。また、参加者の皆さん自ら手がけたところが徐々に変化していくこと、何よりもふだんとは違う体の使い方をすることで、心地よい疲労感が得られ、満足度も高かったこと。
そして何より、ワークショップから時間が経つにつれ、ジュクジュクだった地面が靴裏を汚さず歩けるようになったこと。土と水の扱いはとてもやっかいなものだが、このようにプロと一般市民がうまく共働することで、活動地としての快適さが増した。

将来イメージ

殿川の活性化の一方策として、親子こどもアトリエや音楽教室で運営資金を得ながら、引き続き音楽・芸術を通して、新たな楽しい子育てのあり方を発信し、子どもやお母さんだけではなく、地域住民やお年寄りのみなさん、また他地域にもアプローチをかけ、殿川からこのコミュニティースペースを軸に新たなカルチャーをつくりたい。外からのアーティスト講師だけでなく県内、地域内からも職人を招き吉野の伝承工芸や芸術などを学びに取り入れていく。一つの古民家だけではなく、敷地内、地区内での他の敷地への活用方法を模索し、（CAFE や公園や展望台をつくるなど）吉野町や奥大和の親子のなごめる場所を村全体に拡大していく。

なのはな生活協同組合

活動名　こども食堂からべえ・地域で考えるこどもの貧困と安心できる街づくり

活動のきっかけ

こどもの貧困が問題となり、生協として地域で何かできないかを考えた時、食と人のネットワークを生かしたこども食堂の開設を目指す。社会福祉協議会から情報もあり、住んでいる人の情報（個人情報に触れない程度）や地元企業とのつながりもできてくる。2017 年 2 月に成田市民、加良部地区社会福祉協議会、なのはな生協の 3 者で運営委員会を結成し、同年 7 月に開設。

協働した団体

◎加良部地区社会福祉協議会
◎こども食堂からべえ運営委員会

活動内容概要

毎月第 2、第 4 土曜日、12 時～ 14 時で開催。参加費は大人 300 円、高校生以下は無料。まん延防止措置、緊急事態宣言発出中はお弁当のテイクアウトを実施。中で食べたいという希望者には感染防止対策を徹底し、飲食を可能としました。コロナの影響が 2 年となり、昨年より参加者が多くなりました。置かれている状況の厳しさを理解できました。成田市の市民団体と協力し、食材配付もおこないました。

他団体と協働することで発見したこと

成田市民、加良部地区社会福祉協議会と共同で運営していることで、この地域や住んでいる人たちのことを知ることができました。学校の先生や地元の企業とつないでくれたり、成田市内にある他のこども食堂の様子を聞かせてくれたり、地域に住んでいる人ならではの細やかな情報が入り、何が必要なのかも分かりとても運営しやすかった。

活動において生協が担った具体的な役割

生協の強みを生かした安定した食材の提供、そして地域ささえあい助成金による設備の充実と環境整備。こども食堂の運営の中心になり、コロナ禍の中、密にならぬようスタッフの人数調整をおこなった。他団体や地元企業の窓口となり、寄付された食品を効率よく使う。こども食堂からべえ農園の維持。なのはな生協組合員からの募金。

成果として評価できる点

徹底したコロナ対策で休むことなく活動を継続することができた。5 年目となり、市内での認知度が広がり、近隣だけではなく、いろいろな所から来ています。成田市や社会福祉協議会のおかげでいろいろな企業や人とつながり、まさに地域の人たちで子どもを育てているような実感がありました。近隣の農家から借りている畑も人とのつながりで開設できたものです。いろいろな人とつながることで活動の幅が広がってきています。

将来イメージ

コロナの影響で子どもたちの体験する場がどんどん減ってきています。今年度もできなかった農業体験をおこないます。子ども食堂も同様ですが、大人たちと様々な体験をすることで多様性が生まれてくると思います。子どもの貧困と同時に勉強の格差も問題になっています。地域や人とつながり、学習支援をおこなえればと思います。子ども食堂のある場所はシャッター商店街の一角にあります。子ども食堂が開店してから、八百屋ができ、カフェ、マッサージ店ができました。豆腐、パン、魚の移動販売車が来るようになりました。地域が少しずつですが活性化してきました。人が集まり、地域で子どもを育てる意識が芽生えれば良いと思います。

宝塚ミライキャンパス

活動名　子育て世代の力で地域力アップ

活動のきっかけ

宝塚市が市民と協働し、お互いさまのまちづくりを促進する事業「エイジフレンドリーシティ宝塚」の縁卓会議の参加をきっかけに、子育てに関わる活動をおこなうメンバーによって立ち上がった市民活動団体で、自身の子育てを通して孤独や不安を感じた経験から、”つながりの不足”が様々な社会課題を生んでいる事を感じ、その課題を解決すべく、それぞれの経験を生かして”宝塚での子育てを楽しく”を目指し、始動した。

協働した団体

◎コープこうべ　第１地区本部
◎宝塚市社会福祉協議会
◎宝塚市地域福祉課

活動内容概要

・Web・SNS を活用したコミュニティとネットワーク構築事業（子育て応援サイト「こもたの」）
・イベント等を通した子育て支援事業（あつまろコープさん、おやこカフェ、縁卓ごはん、ファミリーホリ Day）
・地域とのつながりづくりのためのまちづくり事業（つなぐマルシェ）を実施し、子育て世代と子育てを応援する活動と地域をつなげる基盤を創出し、互いに支え合い楽しく子育てができる地域社会への発展を目指している。

他団体と協働することで発見したこと

子育て世代を応援する宝塚市内の活動者と新たに出会う機会を得ることができ、各団体がもつ子育て応援に関する課題を知ることができ、解決するためのアイデアを出しあうことができた。また、コロナ禍で実施できていなかったイベントをオンラインで実施するという新たな形も共に生み出すことができた。（子育て世代への居場所づくりに関する Web アンケートの実施やオンライン座談会、コープクッキングサポーターによる料理動画配信）

活動において生協が担った具体的な役割

コロナ禍だからこそできる新しい形をと、コープ組合員集会室だけでなく、店舗の空きスペースや店舗近隣の公園や施設もイベントのフィールドとして活用し、安心してイベントを実施できる形をともに考えてくださった。GPS アートウォークでは、コープ店舗の周辺を清掃活動しながら歩いた軌跡を描いた。その際、ゴール地点にてコープ職員の方に「コープのごみ削減の取り組み」をお話しいただき、学びの機会を得ることができた。

成果として評価できる点

市内にはさまざまな子育て応援活動があるものの、情報が分散しており、子育て世代へ十分に行き届いていないという課題があった。今回、他団体と協働しイベント等を実施したことで、互いの情報を共有し、「子育て応援ポータルサイトこもたの」を立ち上げ、公式 LINE や SNS で多様な情報を発信することができた。イベント参加者には、コロナ禍で育児をスタートした 0 歳～ 2 歳の親子が多くみられ、地域コミニュティに入るきっかけがなかったが、公式 LINE や SNS を通じて情報を得られたことで、地域に足を踏み出すことができた、という声をたくさん聞くことができた。イベント 21 回（延べ 691 名）。公式 LINE 配信（年間 36 回配信）。

将来イメージ

これまでの活動で得た地域とのつながりと、地域活動知見、子育て世代ならではのデザイン力と巻き込み力を活かし、集約してスキルとして活用する事で、行政・民間団体・企業・市民団体と子育て世代や応援活動をつなぐ架け橋となり、”お互いさま”な地域社会づくりを加速化させるプラットフォームを創出し、お互いがつながり支え合い、楽しい子育てができるまち・宝塚を目指すまちづくりを推進したいと考えています。その一歩として、2022 年度はコープこうべが新たに宝塚市内に開設する「集い場」を地域のまちづくり団体と共に「地域の情報ステーション」「安心して立ち寄れる地域の居場所」として創り上げていく予定です。

NPO 法人みやっこサポート

活動名　食で子ども達を守り、地域の未来を守るプロジェクト

活動のきっかけ

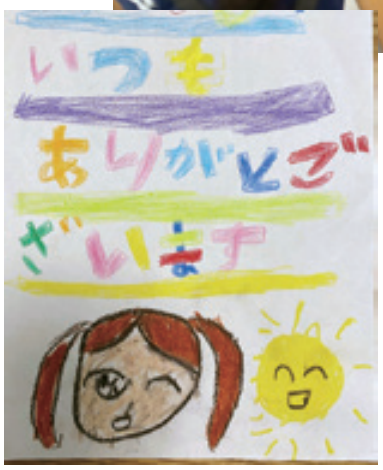
当法人が地域福祉への貢献を目的に相談支援や地域交流、子ども・子育て支援を行ってきたことを、コープこうべの方々が知り、今後更に増える高齢者、地域からのニーズ、社会問題に取り組むには地域における連携、特に食を通じての支援や学びが必要であると意見が一致し、協働での活動を進めた。

協働した団体

◎生活協同組合コープこうべ　第 2 地区本部
◎コープ夙川
◎労災センター事業団　西宮事業所
◎特定非営利活動法人　なごみ

活動内容概要

当法人主催、他の団体との協働で、『みやっこ弁当』（サポートの必要なご家庭への弁当や食材などの提供）などを、南東地域で居場所づくりを行っている NPO 法人なごみとの連携で、毎週火・金曜日に配布する。配布方法は、レンタルスペースでの配布および、取りに来れないご家庭には配達を行う。
お弁当を配布することにより、ご家族の負担を軽減すると共に、問題を抱えているご家庭をサポートに繋げる。



他団体と協働することで発見したこと

コロナ禍で人が集まれないなかで、各団体が試行錯誤して地域貢献をされており、その工夫の中に今後必要となる支援やその手段を発見することができた。
想定外の災害や災難が起きた時には、社会に必要なもの不足しているものが明確化されるが、社会課題に向き合う団体には、それを補うための柔軟かつ積極的な発想や実践力が求められる。
それを各団体が自分たちの強みを活かしながら実践している姿から、地域福祉に必要なことを学んだ。

活動において生協が担った具体的な役割

食のサポートの必要なご家庭の掘り起こしと、サポートが必要なご家庭への弁当配布の案内、食材の提供、そして直接的な弁当の配布と配達、ご家族への声掛け等のサポートを行った。

成果として評価できる点

■みやっこ弁当（毎週火・金曜日）
2021 年 4 月から毎週金曜日に弁当及び食材を配布。
2021 年 9 月からは、南東部地域は金曜日に、国道 2 号線から山側にかけての地域は火曜日に弁当を配布。合計 75 日間実施し、子どものいるサポートが必要なご家庭に、のべ 4,091 個の弁当を配布することができた。そして、そこから問題を抱えるご家庭を必要なサポートにつなげることができた。

将来イメージ

コロナ禍の取り組みとして開始した弁当配布だが、この弁当・食材配布により、地域に潜在する社会課題を見つけサポートにつなげられる仕組みをつくることができた。
これまでまちに潜在する問題の掘り起こしは地域福祉の大きな課題であり、問題を抱える人をどのように見つけ、どのように関係を築いていくかが地域福祉の担い手の大きな悩みであったが、一昨年からの弁当配達で大きな効果、結果を出すことができた。これからもこの活動を継続させ、より多くの困難を抱える人達を必要なサポートに繋げることを目標とすると共に、地域住民、地域企業との連携を強め、行政へ働きかけ、このしくみがさらに広がるように啓発活動を行う。そして 3 月から開始した学校給食の余剰食材の活用の取り組みも活性化させ、より多くの子ども達へのサポートを実施する。

地域ささえあい助成　フォローアップ(ヒアリング)実施しました

◆ 2021 年度フォローアップ

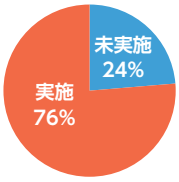
フォローアップとは、一言でいうと、「地域ささえあい助成」をより活用していただけるよう、事務局が助成先団体にヒアリングを実施するもので①助成事業の継続状況（感染症が取り組みに与えた影響含む）②助成金の執行状況③今後の活動見通しなどから、事業実施の効果や課題を把握・検証し、地域ささえあい助成（制度）の改善に資することを目的として実施するものです。
2021 年度は助成開始後半年を経過した時点において、フォローアップを実施いたしました。

2021 年度の助成先団体

助成先 38 団体（2020 年度からの継続 4 団体含む）

フォローアップ実施状況

実施団体：29 団体（実施率 76.3%）
実施期間：2021 年 9 月 28 日～ 2022 年 1 月 6 日
実施者:日本生協連（小林（真)、前田、蔦）コープ共済連（田中、境、松永、小林（美））（各回 2 ～ 4 名出席）
実施方法：事前に送付・回収したヒアリングシートと応募書類をもとにフォローアップを実施。



助成事業の継続状況と助成金の執行状況（感染症が取り組みに与えた影響含む）

新型コロナウイルス感染症の第 5 波の影響を受けて子ども食堂等の企画や密になるイベント等は開催回数を減らす、開催を中止するなど影響がありました。また、協働する生協、団体間でのコミュニケーションが十分にとれないことを要因とするトラブルや、活動からメンバーが減少し、継続性が危惧される事例もみられました。上記の影響もあり、一定数の団体で助成金執行の遅れが見られました。

事務局振り返り

フォローアップ実施後も感染症の影響によって、活動がおこなえるかどうか不安定な状況が続く可能性がある中、多くの団体に可能な活動を実施する意思が見られ、協働する生協も可能な連携を展開していく様子がわかりました。事務局としては活動が滞らないための必要な情報発信や、役立つイベント情報の発信をすすめていくこととしました。

実施団体から寄せられた声

- 年度途中のヒアリングでいただいたアドバイスを受け、当生協の組合員に向けてフードドライブの呼びかけをすることになりました。
- 思うように満足いくコミュニケーションがとれていない中で、事務局のヒアリングで正直に悩みや疑問も相談したところアドバイスをいただき、改めて協働の働きかけができ、それをきっかけにコープさんで以前もお世話になった「吉野共生プロジェクト」での殿川での活動報告も果たすことができました。また事務局の皆様に活動に共感していただき、ご指摘、全国規模での視野での応援の声をいただけたこともとても嬉しかったです。

※ 本ページ掲載写真は、「愛媛医療生協　共同農園レインボーファーム」様、「東吉野こどもと楽しむ会」様よりご提供いただきました。見守る、育てる、はぐくむ、共に育つイメージが「フォローアップ」に重なりました。

2021年度　CO･OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会 開催報告

2021 年度「CO･OP共済　地域ささえあい助成　団体交流会」は「地域ささえあい助成」が設立されて 10 周年を迎える節目として評価会議からの答申を確認しつつ、「コロナ禍での活動継続のヒントを探して」をテーマにオンラインで開催し、51 名（うち事務局 13 名、審査委員 6 名）、27 団体が参加し、2 団体・2 生協から活動報告がされました。

開催日時

2021 年 10 月 28 日（木）13：30 ～ 16：30　ZOOM 開催

開催内容

1 開会挨拶

コープ共済連
総合マネジメント本部
本部長　**前田 かおり**

2 10 年間を振り返り新たな制度へ

コープ共済連
総合マネジメント本部 組合員参加推進部
部長　**田中 美樹**

3 2 団体・2 生協からの活動報告

基調報告①　UD ワーク（茨城県つくば市　市民団体）　代表　**前田 亮一 氏**
「オンライン、はじめの一歩」
基調報告②　大阪府阪南市社協　地域福祉グループ　主任　**坂上 尚大 氏**
「つながり・つなげる～コロナ禍における地域福祉活動の実践」
活動報告①　コープぎふ　飛騨支所　**松原 滋 氏**　「コロナ禍でのサロンの開催について」
活動報告②　おかやまコープ　エリア理事　**村上 利知巳 氏**　「西日本豪雨から 3 年　地域の団体と一緒に」

4 分散会交流＋全体交流

ZOOM のブレイクアウトルーム機能を使って少人数のグループに分かれ、自団体での取り組み実態や悩み等の共有をし、今後に向けた展望を話し合いました。その後、分散会で出た意見等を全体で交流しました。

5 閉会挨拶

コープ共済連
総合マネジメント本部 組合員参加推進部
部長　**田中 美樹**

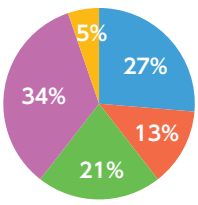
6 司会・進行

コープ共済連
総合マネジメント本部 組合員参加推進部
組合員参加・社会貢献活動グループ
グループマネージャー　**境 宏子**

【団体交流会参加者のスクリーンショット】

【団体交流会　舞台裏風景】

【参加者アンケート回答特典】



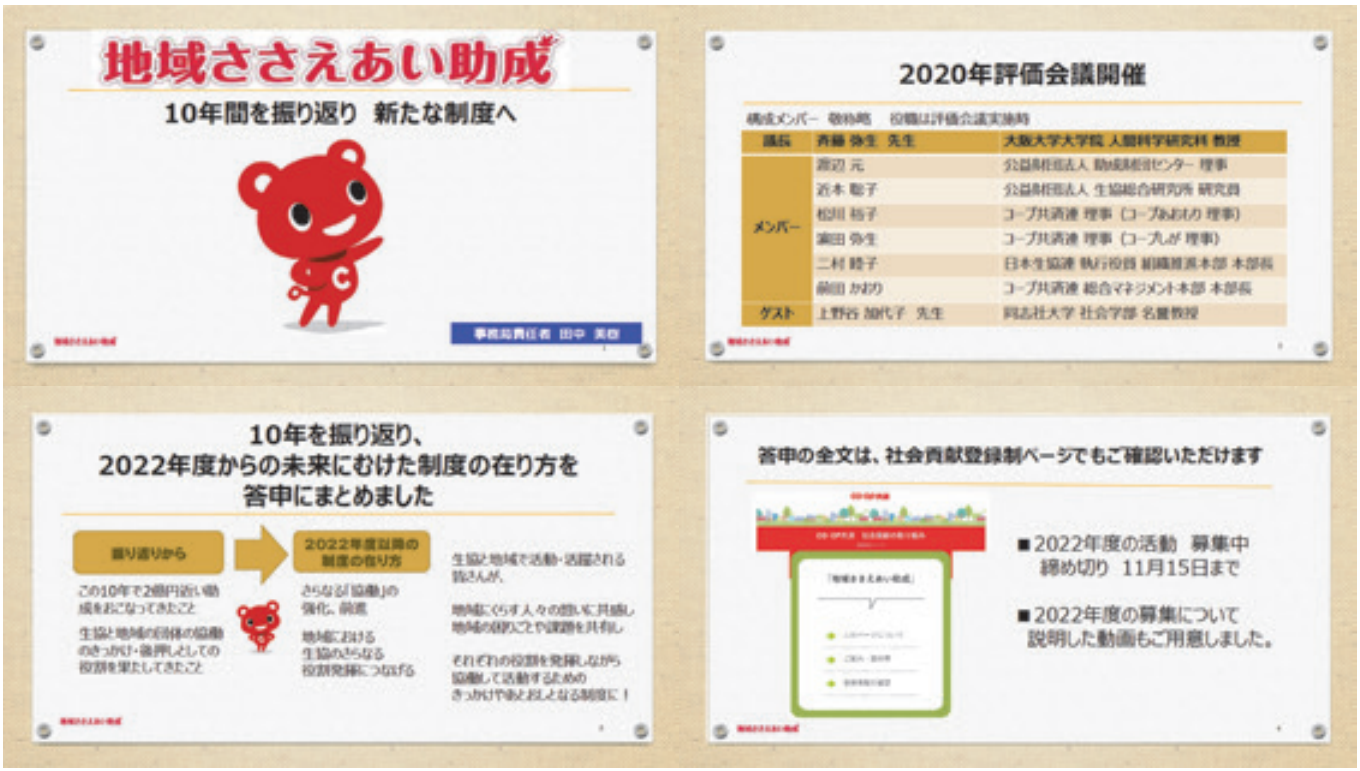
団体交流会参加状況
- オンライン参加
- オンライン参加・動画配信も視聴
- 動画配信を視聴
- 不参加
- 未回答

後日、動画配信をおこないました。

参加者の声

- 参加者・運営者の双方にとって次を考える、先を見据える「希望をつないでいく」ということが響きました。
- UD ワーク様の報告では、すでにリモートを活用されての活用事例がたくさんあることを伺うことができ、まさに、私たちが今年度すすめようとしているサロンでの活用は、有効的にできそうだという確信と勇気をいただけました。ハイブリッド開催サロンから手始めに、完全オンライン活用の地域づくりも展望できそうだとの感触が持てました。また、運営チームを支える、OS チームの強化も課題と認識させられました。いずれにしても、先例からみちびかれた、課題やポイントは大変確信になりました。
- リモートでの会議、施策が可能なことが分かった。また、みなさんの一生懸命さに心打たれた。
- 印象に残った事　コープぎふ様の「生協がやる、じゃなくて、生協とやる」「巻き込まれ力を発揮する」、阪南市社協様の「この状況下で何もしないのは、福祉委員会が存在している意味がない」
- おかやまコープ様の「コロナ禍での工夫～会場のレイアウト」を乳がん啓発イベントの実施時に取り入れてみたいと思います。
- 生協が他の諸団体と一緒になって地域の課題に対応していることが、生協にとって大切だと改めて思いました。
- 久し振りの「会」への参加で、緊張し、疲れました。参加に際しては、協働生協のサポートに感謝しています。
- コロナ禍で、従来の活動ができず苦慮しておりましたので、他団体の様々な取り組みはとても参考になり、今後取り入れていきたいと思いました。
- UD ワークつくばさんの、オンラインはじめの一歩が、交流会参加した方の背中を押してくれたような気がします。
- 地域や所属の違う方と交流でき、連絡先の交換などもできたので、今後のつながりも生まれそうだと感じました。
- コロナ禍で今までのくらしが窮屈になっていたと思っていましたが、その中で、ZOOM を活用できるようになったり、コロナ禍でなかったら縁がなかったかもしれないことなど、気づくことが出来ました。これからも新しいことを取り入れ、更に広げられたらいいなと思いました。
- 「地域の課題に対して、他団体と積極的にかかわっていく活動スタイル」の報告は感銘しました。参考にして、今後、何が出来るかを模索していきたいと思いました。

（※）「評価会議からの答申」を当日は「10 年間を振り返り　新たな制度へ」と題して、ご報告しました。



明日のくらし、ささえあう
CO·OP共済

2021年度の募集内容です。団体・部署名等は当時の表記です。
2022年度の募集は終了しています。2023年度の募集については、2022年秋頃に、ホームページ等でのご案内を予定しております。

地域ささえあい助成

― 生協と他団体が協同する活動を応援します ―

2021年度 募集のお知らせ

CO·OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。コープ共済連はCO·OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して地域のくらしを向上させる活動を支援します。全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

応募期間
2021年1月7日(木)～1月29日(金)
(当日消印有効)

応募条件

活動テーマ
以下①～③の対象となる活動のテーマいずれかに該当すること

＋

必須条件
生活協同組合とNPO・ボランティア団体等が協同した取り組みであること

対象となる活動のテーマ

①「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」

例　地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

例　病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

③「女性と子どもが生き生きする」

例　子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

対象となる活動期間

2021年4月1日～2022年3月31日の間に実施する活動が対象です。

必須条件～生協と他団体の協同～

次の①、②いずれかを必須とします。

①生活協同組合以外の団体(NPO法人等)が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合と協同して行うもの」である
②生活協同組合が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合以外の団体と協同して行うもの」である

- 日本国内を主たる活動の場とする生活協同組合、NPO法人、任意団体、市民団体を対象とします。
- 今後設立予定の団体でも構いません。
- 「協同して行う」とは、受注委託の関係ではなく、対等平等で企画を一緒に作り、ともに活動する関係をいいます。

〈対象とならない活動〉―以下、例―

- 左記の①～③のいずれのテーマにも合致しない活動(環境問題等)
- 生活協同組合同士の活動(100%子会社・生協から派生した団体も含む)
- 生活協同組合単独もしくはNPO法人等の団体単独の活動
- 生活協同組合が、対象となる活動期間中に「CO·OP共済健康づくり支援企画」より助成を受ける活動(応募を予定している場合や、審査中の場合も含みます)
- 生協の役割が、主に会議室等の場所や食料の提供のみの関係である場合
- 単発のイベントのみでの協同で、イベント終了後の協同の深まりが見受けられない場合
- 生協が他団体の主催するイベントにブース出展するのみで、全体の企画への関与が乏しい場合

助成内容

助成額は、1事業あたり100万円を上限としますが、審査委員会が認めた活動に限り、それ以上の助成額になることがあります。

審査委員会の判断により、一部減額での助成となる場合もあります。

助成総額は最大2,500万円を予定しています。

●助成の対象となる費用●

- 活動に直接関わる経費（資材費、消耗品購入費、旅費交通費、印刷製本費など）
- 講師謝礼、指導料など

●助成の対象にならないもの●

- 飲食費、接待費、保険料、人件費（応募団体および協同する団体の職員に対する講師謝礼・指導料等の謝礼金を含みます）
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

選考

助成団体は、外部有識者やコープ共済連関係者などで構成される審査委員会で決定します。

同一団体に同一内容で複数回助成を行う場合は、3年を上限とします。また、審査委員会の判断により、一部減額での助成となる場合もあります。

なお、生協以外の団体が応募する場合、生協の役割発揮が期待できるかを重視して選考を行います。

選考にあたり、事務局からヒアリングさせていただく場合がありますのでご協力ください。

応募スケジュール

- ■応　募　期　間：2021年1月7日(木)～1月29日（金）（当日消印有効）
- ■審 査 委 員 会：2021年4月
- ■結　果　通　知：2021年6月上旬（第一報はメールで通知します）
- ■助成金の振込：2021年7月下旬

活動報告

助成を受ける団体には、所定の報告書をご提出いただきます。その他に、活動の様子について訪問や取材をさせていただく場合、コープ共済連の主催する交流会等での報告をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告は、コープ共済連のホームページや冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

応募方法、提出書類

①応募要項、応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記「お問い合わせ先」までメールかお電話にてご請求ください。

URL **http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2021.html**

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

②応募方法

応募にあたっては、応募要項をよくお読みいただき、以下の書類を事務局宛にご送付ください（メール、郵送のみ可）。

応募団体への事務局からの書類受領通知メールをもって、受付完了とします。2021年2月15日頃までに受領通知が届かない場合、受付ができていない可能性がありますので事務局までお問い合わせください。

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
- 定款（定款は応募団体がコープ共済連の会員生協である場合、ご提出は不要です。ご不明な場合はご相談ください）
- 見積書など（申請する費用の根拠となる資料）

お問い合わせ先

日本コープ共済生活協同組合連合会
組合員参加推進部
地域ささえあい助成事務局宛

TEL **03-6836-1324**（平日10：00～16：00）
メール **contribution@coopkyosai.coop**

応募書類提出先

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13
コープ共済連　組合員参加推進部
地域ささえあい助成事務局宛

過去の助成団体活動内容はホームページでご案内しています。

コープ　ささえあい　報告集　検索

URL http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/report.html

「協同」についてご不明な場合は、日本生協連 地域・コミュニティ担当（03-5778-8135）までご相談ください。
※協同する生協をお探しの場合、生協との調整に時間がかかる場合や、地域の事情により生協をご紹介できない場合もございます。

はじめに

コープ共済連で「地域ささえあい助成」を始めてから 2022 年 3 月 31 日をもって丸 10 年となります。本助成制度の 10 年の歩みを振り返り、その内容を多くの方に知っていただき、今後、地域の生協や団体が取り組む様々な地域づくりの活動にさらにご活用いただけるものとするため、10 周年記念の取り組みを実施いたします。これまで本助成制度をご活用いただいた団体・生協のみなさま、関わり育ててくださったすべてのみなさまに心からの感謝の意を表します。

初代審査委員長の想い
協働の蓄積で、たすけ・たすけられる関係のさらなる構築を

「地域ささえあい助成」というのは、素敵な名称の助成事業です。単なる福祉活動への激励でもなく、点としての活動でもなく、そこには、線から面へと地域社会の形成を願い、それを支えあい活動を通して実現しようと、ややチャレンジングな助成でもあります。本助成制度の前進である生協の福祉活動を推進する目的で実施してきた 15 年間の助成事業の実績が「地域ささえあい助成」に引き継がれたのです。さらに、2010 年頃になりますと、厚生労働省もニーズの変化に応じて、共生社会の創設に向けて地域住民や種々の団体と協力、連帯する方向が求められるようになってきました。その流れは、生活協同組合にも求められ、生協内だけで福祉活動を実施し、発展させていくことの限界性が示されるようになったのです。今まで以上に、助けあい活動を地域社会に広げ、生協以外の様々な団体と共に協働して支えあい活動を推進しようとしたものです。
10 年間の審査委員会では、毎回悩みながら、意見の違いを乗り越え、丁寧な審査をさせていただきました。
様々な立場の委員の見立ては、私にとって新鮮で学びの多い委員会でした。そして、全国の交流会や学習会などの実施も思い出深いものがあります。コロナ禍で、対面による人と人とのふれあい、交流が激減していますが、知恵を絞り工夫をカタチに変え、益々地域における支えあい活動を発展させましょう。
ご一緒に。

2012-2021 年度　CO･OP 共済 地域ささえあい助成審査委員会　委員長 上野谷 加代子
（同志社大学　名誉教授）

初代事務局より当時を振り返って

地域ささえあい助成がスタートした 10 年前。お恥ずかしながらその素養がなかった私は「助成とは」「協働とは」「NPO･NGO とは」を必死で学びながら事務局のスタートを切った記憶があります。募集要項や応募用紙・審査方法を手探りで検討するなかで、不備がありご迷惑をおかけしたり、問い合わせが殺到するなど……詰めの甘さを自省したことが何度もありました。
お送りいただく応募用紙には、地域共生社会の実現にむけた想いが詰まっています。拝読するなかで、単独では成しえない成果を生み出す「協働」の可能性を感じるとともに、審査委員へ想いをおつなぎする事務局としての責務に、身が引き締まる思いでした。1 件ずつの応募用紙に真剣に向き合い、応募者の皆さまには追加ヒアリングにもトコトン付き合っていただきました。
事務局を離れた後、助成団体の活動に参加する機会に恵まれました。特定非営利活動法人ソーシャルビジネス推進センター（2014 ～ 2016 年度助成：北海道）は、過疎地域における介護予防事業をすすめていらっしゃいますが、NPO・大学・生協のそれぞれの強みとネットワークを活用したからこその緻密な連携がありました。
そして活動に参加されている地域の皆さまの笑顔がそこにはありました。「1 ＋ 1」は 2 ではなく、3 にも 4 にもなるという本助成の意義を切に感じました。今後も本助成を通じ、地域における協同・協働が促進することを祈っております。

日本生協連 渉外広報本部 広報部 広報グループ　グループ マネージャー 西井 安紀子
（当時：コープ共済連　地域ささえあい助成事務局）

「活動報告集」は助成金活用団体の活動を紹介するために、2012 年度より毎年発行してまいりました。ここでは 10 年分の表紙をご紹介いたします。

◎ 2012 年度

◎ 2013 年度

◎ 2014 年度

◎ 2015 年度

◎ 2021 年度

◎ 2016 年度

◎ 2017 年度

◎ 2018 年度

◎ 2019 年度

◎ 2020 年度

※助成金活用団体の取り組みは上記の「活動報告集」に掲載しています。CO･OP 共済オフィシャルホームページでご覧いただけます。

本頁では、10 周年記念企画　第 1 弾　「特集記事①」として 2012 年度（第 1 回目）から今に至る「地域ささえあい助成」における取り組みをご紹介・ご報告いたします。

「地域ささえあい助成」の誕生　（2012 年度（第 1 回目）取り組み報告集より転載）

1996 年から 15 年間、コープ共済連設立前の日本生協連において、生協の福祉活動を推進する目的で生協福祉活動推進助成事業を実施していました。共済事業の剰余金から 1 年間で約 2,500 万円、1 次を 5 年間とし、2010 年度までの 3 次（合計 15 年間）で約 3 億 7,500 万円を助成しました。この助成事業は、特に「くらしの助け合い活動」や「子育てひろば」の取り組み等に大きな役割を発揮し、活動のきっかけづくりや新規立ち上げにおける財政的な基盤となってきました。この 15 年間で本事業の助成対象となる分野の福祉活動については、一定の広がりができ、子育て支援活動においては、自治体からの支援も可能となるなど、一定の役割を果たしたため、2010 年度に終了しました。
しかしながら、今後の生協内の活動に留まらず、限られた資源を有効に活用して「日本の生協の 2020 年ビジョン」の実現に寄与し地域社会に貢献するための取り組みとして、2012 年度より「CO･OP 共済　地域ささえあい助成」を実施することとしました。

これからのCO･OP共済の「地域ささえあい助成」への想い ～「フードバンクしまね・あったか元気便」のあゆみに寄せて～

「フードバンクしまね・あったか元気便」は年に 3 回、小中学生がいる要援助家庭に、段ボールにいっぱいのお米と食料品を送っています。「声を上げていない、でも支援が必要な家庭や子どもたち」と、どうすればつながることができるのか。「元気便」の皆さんは真剣に考えてきました。3 月半ば、感染予防を徹底した体育館に、協同組合、一般企業や労働組合の人たち、地域福祉ボランティア、高齢者大学同窓生、大学生など老若男女が、2 日間で計 4 回のパッキング作業に 200 人を超えて集まりました。品物は地元の運送業者の協力のもとで各家庭に届けられます。また品物を直接手渡する機会も増え、対話や出会いも大事にしています。運営を担うのは、生協しまね、松江保健生協、JA しまね、グリーンコープ生協（島根）、地域つながりセンター、島根県労働者福祉協議会による運営委員会で、組織の強みを生かした連携は地元企業などの協力の輪も広げています。
一般に、フードドライブはフードロス対策や困窮家庭へ食品を提供する善意の活動です。しかし「元気便」は“つながりづくり”の活動。社会的孤立を見逃さないことが目標で、そこには協同組合の活動理念があります。「元気便」は市内 11 小中学校の協力を得て、希望された 277 世帯（約 975 人）に届きました。「元気便」は初め、20 世帯を対象に、地域の公民館で始まった小さな支援活動でした。CO･OP 共済の「地域ささえあい助成」はその小さな活動の一部を支えました。これからも新たなつながりづくりを支援する助成であって欲しいと思います。

2022 年度　CO･OP 共済　地域ささえあい助成審査委員会　委員長　斉藤　弥生
（大阪大学大学院人間科学研究科　教授、放送大学　客員教授）

次の 10 年、そしてさらなる未来に向けて……

2022 年度より審査委員長を大阪大学大学院の斉藤弥生教授にお願いすることとなりました。斉藤委員長は、初代審査委員長の上野谷加代子同志社大学名誉教授とともに放送大学教材『地域福祉の現状と課題』（放送大学教育振興会）（左図）を著されるなど、地域福祉分野においてご高名です。
「CO･OP 共済　地域ささえあい助成」ではお二人を審査委員会にお迎えすることができ光栄です。斉藤委員長は 2022 年 4 月からはじまる放送大学で「地域福祉の課題と展望」講座を受け持たれます（テキスト右図参照）。

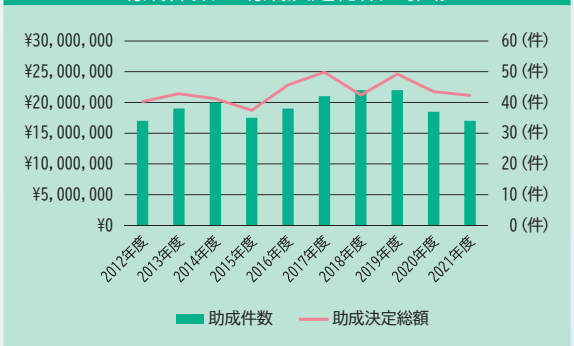
今回ご紹介いただいた「フードバンクしまね　あったか元気便」「なないろ食堂、地域つながりセンター」は同講座にて紹介されています。
私達がこうした活動に関われたことを誇らしく思うと同時に、これまで本助成制度に関わり、育ててくださった多くの皆様の想いをつなぎ、これからも地域の生協・団体、審査委員の皆様ともに学びあいながら、本助成制度をより良い制度に育てていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

コープ共済連　総合マネジメント本部　組合員参加推進部　部長
地域ささえあい助成事務局　責任者　田中　美樹

CO･OP 共済　地域ささえあい助成　これまでの実績のご紹介

年度	助成件数	助成決定総額
2012 年度	34	¥20,149,000
2013 年度	38	¥21,416,774
2014 年度	40	¥20,582,597
2015 年度	35	¥18,718,336
2016 年度	38	¥22,851,428
2017 年度	42	¥24,929,950
2018 年度	44	¥21,203,306
2019 年度	44	¥24,612,153
2020 年度	37	¥21,761,100
2021 年度	34	¥21,149,612
のべ合計	386	¥217,374,256

助成件数と助成決定総額の推移



10周年記念企画　第2弾「特集記事②歴代審査委員が振り返る10年間」
第3弾「10周年記念座談会～歴代審査委員が10年間を振り返ってみて/まとめ～」

審査委員に就任した際に思ったこと

- 助成審査委員を引き受けていただけませんか？と、お話をいただいたとき、イメージがわかず⁉となったことを、覚えております。事務局から、詳しい説明と、委員としての心構えを教えていただき、組合員目線での審査をすればよいと、言っていただけたので、安心してお引き受けしました。その後届いた分厚い書類の束に、一瞬後悔しましたが、申請書類の内容を読み、いろいろな活動ができる可能性に、心が高揚しました。実際の審査委員会は、この機会がなければ出会うことのできない方々と意見交換ができ、新しい視点に気付かせてくれる場であり、一組合員である私の意見を、受け止め議論していただけたこと、感謝しております。
- わー、できるかしら？最初は審査資料の量に圧倒されました。
- この制度が発足した 2012 年から 14 年までの 3 年間、委員として参加しました。CO･OP 共済の助成事業は、1996 年から 15 年間日本生協連のもとで生協福祉活動推進助成事業として、共済の剰余金を拠出してきました。その当時は、資金は拠出していましたが、助成先の選定や活動内容は日本生協連本部での審査に委託しており、共済部局では十分把握できていませんでした。コープ共済連の制度として主体的に助成先の選定・審査をおこなうこととなり、申請が出された各団体の活動計画・資金計画、生協と諸団体の連携の内容などを、審査委員会で大変慎重に検討しました。委員会の前に、事務局が用意した申請書類を時間をかけて読み込んだことが印象に残っています。
- 10 年前に助成を開始した時から広報部として事務局を担当し、人事異動をきっかけに審査委員に着任したという経過であったため、委員の方々に審査のための資料を提供する立場から、なぜか資料を受け取って審査する側に回ってしまったという印象でした。ところが、審査資料を読み始めた途端、自分の判断が間違っていた場合、せっかく応募していただいた優良な団体に不利益が生じたり、逆に無駄なお金を渡すことになってしまうこともあるのではないか、という大きなプレッシャーを感じたことを思い出しました。
- 「生協福祉活動推進助成事業」を終え、新しい助成を始める時期に当たり、どのような点を新しくするのか、上野谷先生、日本 NPO センターの吉田さんたちと繰り返し論議したことを覚えています。
- 事務局を管掌するということもあり、純粋に委員として参加していいものか、ちょっと迷った記憶があります。
- 前任者が審査をしている様子は見ていましたので、「審査が大変～」とは思っていました。一方で、全国の様々な取り組みやユニークな連携事例などを知ることができる、と楽しみにもしていました。
- 長年生協の組合員のくらしや地域活動について研究しており、特に「子育て支援活動」を普及するにはどうしたら良いかという視点で研究している時期で、自分の研究成果も出していたので、スキームについて検討の討議をしたり、良い事例をみて判断することができる大変よいチャンスを与えていただいたと嬉しく感じました。まさに「腕が鳴る」という表現がよいかもしれません。

「CO･OP 共済地域ささえあい助成」ならではの制度だと思われること

- やはり“協働”にこだわっている点だと思います。
- 生協と他の民間団体・組織との「連携」に焦点を当てている点。
- 他団体と生協が協働で、活動を展開しており、組合員に限らず、地域のために役立つ活動に助成がなされる点です。
- 生協だけの取り組みではなく、必ず他組織との協働・提携を計画化してもらうことにした点。生協は、ヒト・モノ・カネを持っているので、あえて他組織と一緒にすすめなくても活動を実施できるのですが、この助成では、あえて他組織との連携を義務としました。それは、連携することにより、地域の課題を様々な目から見ることができること、他組織とちがうコープの強みや弱みを客観的に理解することが可能になることをねらったものです。今でこそ、地域の社会福祉協議会や NPO 等との協働は多くの地域で取り組まれていますが、この協働の流れを意図的に強めたいと条件を設定しました。
- 資金を諸団体に助成することにとどまらず、①その活動の実態をできるだけ具体的に把握すること、②地域生協と地域の諸団体との連携を助成の条件の一つとしていること、③諸団体がより良い活動を進められるように「団体交流会」を開催していること、などがあげられると思います。
- この助成の最大のこだわりは、第 1 回目の審査の前に定めてもらった 5 つの「選考基準」の 1 番目にある「生協と地域の他団体との協同により成り立つ活動であること」だと思います。コープ共済連は言うまでもなく「協同組合」なのですが、「協同」という言葉の持つ意味は、職員でもあまり考えることはないかもしれません。ところが、この助成制度は「生協の内輪だけの活動はダメ。NPO など生協以外の団体だけの活動もダメ」ということで、生協と地域の他団体が一緒になって取り組み、それぞれの地域でささえあいの輪を広げる活動のみを対象にしたことに非常に大きな意味があったと思います。生協は参加者を集めることや一定のお金を拠出することは上手だけど専門的な知識が少ない。一方 NPO の多くは、専門性は非常に高いがお金はあまりなく動員も容易ではない。それぞれが、その得意分野を活かして協同することで、地域での活動の規模を大きくし活性化することができ、地域への貢献度を高めることにつながるのではないか。そういう想いで定めてもらった選考基準は脈々と引き継がれ、地域ささえあい助成ならでは意義を創り上げていったのだと思います。
- 生協と他団体とが連携して取り組むことを重視している点が、ユニークだと思います。
- 各地の多様な生協との繋がりを必須としていること、その関係が相互に刺激することを目的にしていることが大きな特色だと考えています。
- 支えることができるのは、かなり事業や内部関係が成熟した団体や組織にしかできません。大がかりであるほど、である。公共というのが通常大きな支えあいの仕組みですが、公共に先んじて、あるいは課題発見が早くできる、生活現場に近い組合員や市民を支えるのは当事者たちです。公共に先んじて、公共ができないことを育てる視点で「あったらいいね」のスキームを育てることのできる制度だと思う。

10 年間の活動エピソード作文を募集することについて

エピソード募集をするのは大変いいことだと思います。
参加体験記や感想？、それともこの言葉の意味・意義も含まれるエピソードか、自分が「ささえてるな」「ささえられてるな」と感じたのはどんな時だったかなど、10 年を振り返ったさまざまなエピソードがもらえることを期待しています。
「ささえあい」という言葉自体は、一般社会の中でもそれほど日常的に使われるものではなく、特に生協の中では、組合員活動においてもCO･OP 共済の商品としても「たすけあい」の方が圧倒的になじみやすいのだろうと思います。ともすれば、弱者同士がお互いに寄り添いながら生きていくというイメージもありそうな「ささえあい」という言葉を使ったのはなぜなのか、改めて考えるよい機会かもしれません。（60 ページ「コラム」へ続く）

事務局の想い

審査委員の目からご覧になられた「地域ささえあい助成」の制度面への感想や応募団体への想い、審査委員の皆様の視点、就任当時の想いなど事務局でも今回はじめて伺ったことも多かったです。中でも審査資料の多さで困惑させてしまっていたことは、やはり……と思いました。

本頁は、10 周年記念企画 第 2 弾「特集記事②」として歴代審査委員を務められた皆様に、アンケート形式で質問させていただき、お寄せいただいた原稿と記念座談会（2022 年 4 月 28 日開催 10 周年記念企画 第 3 弾）でのご意見をもとに事務局が構成・編集しました。

10 年間で印象にのこった活動・団体

- 2012 年から 3 年間は、東日本大震災の後でもあり、被災地支援・復興支援の活動が助成対象として数多く採用されたことが印象に残っている取り組みです（東日本大震災復興支援　京都生協職員ボランティア、石巻仮設住宅自治連合推進会、福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川実行委員会、福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト等）
- 立ち上げ当初は東日本大震直後ということもあり、関連する活動の申請が多くあがってきました。被災者に寄り添ったきめ細やかな活用が印象に残っています。
- 当初は、申請してもらうために、他組織との協働事例を探して、申請をお勧めする取り組みもおこないました。その中で、コープみらい千葉のブロック委員会と佐倉市社会福祉協議会の「福祉マップづくり」の取り組みが印象的でした。ブロック委員のみなさんが初めて社会福祉協議会の福祉委員の方々と一緒に活動する中で、他組織の方と力を合わせる難しさ、成し遂げたときの喜びを感じてくださり、成果を、福島県郡山市で開催された「全国ボランティア活動交流会」で報告してもらいました。
- 審査委員を引き受ける前から続いている、北海道のまる元は、産官民学全てを巻き込んだ活動が生協でもできるということに気付かされた活動です。他にも、ここ数年で、子ども食堂、フードバンクなどの活動が増えた事が、印象的です。コロナ禍の学生への支援なども、今、助成が必要な人に必要とされる「助成金」だけでなく私たちの想いものせて届けられる活動として「地域ささえあい助成」が印象に残っています。
- 「地域つながりセンター」
  →島根県の JA・社協・おたがいさま・医療生協・地域生協のそれぞれが強みを発揮しつつ協働することによって、行政も巻き込んで、住民が安心して住み続けられる地域づくりに貢献している活動は、まさしく「地域ささえあい」の助成の意義に合致したものであると感じました。
- 「ソーシャルビジネス推進センター」（まる元）
  →コープさっぽろと北翔大学が協力し、NPO が運営主体となって始めた「介護予防事業（健康運動指導・認知症予防）」は、行政にもその意義が認知され、全道の各地で予算が付き大きく広がっていきました。継続的な事業とするため職員採用の方法などに様々な工夫が施されており、全国のモデルとなり得る事業として、その初期段階で助成対象としたことは大きな意義があったと思いました。
- フードバンクや子ども食堂の取り組みは、最初は環境整備的な助成が多かったと思いますが、コロナ禍でフードパントリーの活動が始まったり、大学生への支援が始まったりと、社会の状況に対応して活動が変化してきている点が印象的でした。市民の活動のもつ創意工夫の力強さと柔軟な対応力を感じました。
- やはり実際に活動をみせていただいた、まる元、しがの高島市社会福祉協議会との取り組み、キッズドアが印象に残っています。
- ソーシャルビジネス推進センターのスキームと活動。行政研究のプロ、運動科学のプロ、消費生活のプロたちが考案発展させた規模の大きなスキーム。知識は活動の源泉になることを驚異的なスキーム作りで実現している点が自分としては印象に。また、ニーズから立ち上がった地域の小さなグループが NPO などに発展していくのも興味深かったです。反してうまくいかない事例もたくさんみてきたので、インキュベーター（＊）としては「有限の資源」を使ってその団体の活動を守り育てていけるかが難しいと感じました。

＊インキュベーターとは孵卵器（ふらんき）のこと（温度を一定に保つ機能を有する装置）。このことから転じて、起業に関する支援をおこなう者。広義には既存事業者の新規事業を含む起業支援のための制度、仕組み、施設。

審査する上で大事にされていたこと

- 生協がひとりよがりにならない、相手組織との対等な関係づくりに努力されている点を、大切に見ていたと記憶しています。
- その活動のビジョンに共感できるか、助成が最大 3 年間ということもあり助成後の継続性が見込まれるか、を重視しました。
- 協働・連携において、それぞれの団体や組織が、その強みを生かしたり、自分たちの「やりたいこと・めざすこと」を実現したりできる関係性になっているか（そうしないと長続きしないと思うので）。
- その地域の課題を適切にとらえているか（一般的な課題と被ることももちろん多いわけですが、特にその地域の現状の把握がされている、その地域ならでは課題や可能性に着目している案件について高く評価しています）。
- 他団体と生協が、しっかり協働で活動しているかを、最重点課題として組合員からお預かりした共済金の余剰金を有意義な活動に助成したいという思いから、いつも全国の組合員が応援してくれる活動か、こういうお金の使い方をして納得できるか、という視点で審査しておりました。
- 「協働」を審査の最重要ポイントとしつつ、継続性や発展性の観点からも審査するように心がけました。単発のイベント等にももちろん大事なものは多くありましたが、限られた資金を有効に活用するためには、長期間にわたって地域に根差す活動に重点配分することが重要であるとの考えにもとづいたものです。また、協働が条件であることから、どうしても生協か他団体の片方が「名義貸し」のみで、一方の団体が完全に主導権を握っている事例もしばしば見受けられたので、どのように協同するかの具体的な運営方法まで事務局で調査してもらい、公平に審査するようにしました。
- 助成により持続可能な活動となるか（助成がなくなると活動がなくなるということにはならないか）を重視していました。
- 助成の前の審査だけでなく、助成した後助成金がどのように活用されたのか、助成した各団体の活動がどのように進んだのかを、把握することを審査委員会では重視してきました。地域の諸団体は、ある意味でプロではなくアマチュアであり、活動を始めた（始めようとしている）ところがほとんどです。初年度、計画通りに十分な成果を出せなくても、2 年 3 年後への発展の可能性や芽があるのかどうか、という点も審査委員会では大事な評価ポイントとしていました。事務局担当者による申請団体への丁寧なヒアリングや申請書類のキメの細かい点検、わかりやすい審査資料の作成などがおこなわれたことが、審査委員会での検討の際に大変役立ちました。
- 審査基準をすべて大事にすることはなかなか難しかったですが、ミッションが明確であること（単なる思いつきでないこと）、生協との関連が「本物」であるのか、将来性があるのか、生協の経営層への訴求力などをポイントとしました。

CO·OP共済オフィシャルホームページをリニューアルしました

「CO·OP共済地域ささえあい助成」のサイトをぜひご覧ください。

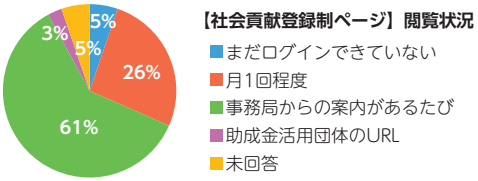
「コーすけ」のブランドサイトをご紹介します

CO·OP共済オフィシャルホームページの「コーすけとCO·OP共済」では、ペーパークラフトや壁紙、ぬりえなど、コーすけの楽しいツールをご用意しています。ぜひ、ダウンロードして活用ください。冊子中にも、クラフトペーパーを使用しております。　【PC版URL】https://cosuke.coopkyosai.coop/download/
【スマホ版URL】https://cosuke.coopkyosai.coop/sp/download/

「社会貢献登録制ページ」（助成先団体のみ閲覧可能）を開設し、ご利用いただいています

2021年6月より開設し、助成先の生協・団体に向けて様々な情報を発信しております。

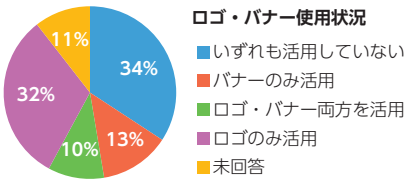
- 助成に関するご案内
  ロゴ・バナー、計画・助成金使途変更、年度末精算、団体交流会、フォローアップ情報、活動報告など
- 各種セミナーのご案内



【利用者の声】CO·OP共済　社会貢献の取り組み登録制ページからいただく情報は、地元のみならず、県外の取組みを知る事もでき、学びの機会が増え感謝しています。

ロゴ・バナーの使用状況をご紹介します

各団体の報告ページにおいても写真でご紹介しています。



次回の団体交流会をご案内します

2022年度は10月27日（木）に団体交流会の開催を予定しています。
テーマは現在検討中です。決まり次第、助成を受けられている生協・団体にご案内します。

本冊子の「協同」「協働」の表記について

「CO·OP共済地域ささえあい助成」では、生協と生協以外の団体による「きょうどう」について従来、「協同」の表記を使用してきましたが、実践的な活動を重視していることがより伝わりやすいように今後は「協働」の表記に切り替えていきます。本冊子では一部切り替えております。

団体名の表記について

コープ共済連は正式名称が「日本コープ共済生活協同組合連合会」、略称が「コープ共済連」「CO·OP共済連」です。
日本生協連は正式名称が「日本生活協同組合連合会」、略称が「日本生協連」です。

「CO･OP共済地域ささえあい助成」をよく知っていただくために、紹介動画を作成いたしました。「章立て」になっています。応募される際の用紙の書き方についても説明していますので、こちらをご覧になりながら、手続きすることができます。

【コーすけクイズ５題の答え】

① コーすけの誕生日は８月８日。

② コーすけのしっぽの形はＰ。

③ コーすけのログセは「一緒にがんばるのだ！」。

④ コーすけがうるうるしてしまうのは「ありがとう」の声を聞いたとき。

⑤ コーすけのミッション（使命）は「ＣＯ･ＯＰ共済を広く知ってもらうこと」。

▼スケジュール（2022 年度予定と 2023 年度募集について）

年	月	2022 年度予定	2023 年度募集
2022 年	9 月		「応募要項」公開 オフィシャルホームページにて（募集動画含む）
	10 月	団体交流会（10 月 27 日） フォローアップ（～ 2023 年 1 月頃）	応募期間（10 月中旬～ 11 月中旬）
	11 月		
	12 月		
2023 年	1 月		
	2 月		（審査委員会開催）
	3 月	2022 年度助成期間の終了（3 月 31 日） 報告書の提出（精算含む）（3 月 31 日）	審査結果通知・受領（下旬）
	4 月		助成金受け取り

コラム

「ささえあい」という「ことば」って？

「ささえあい」という言葉自体は、一般社会の中でもそれほど日常的に使われるものではなく、特に生協の中では、組合員活動においてもCO･OP共済の商品としても「たすけあい」の方が圧倒的になじみやすいのだろうと思います。ともすれば、弱者同士がお互いに寄り添いながら生きていくというイメージもありそうな「ささえあい」という言葉を使ったのはなぜなのか、改めて考えるよい機会かもしれません。

＜助成制度誕生時の名前の由来＞

「CO･OP共済地域ささえあい助成」の名称は、CO･OP共済のブランドスローガン「明日のくらし　ささえあう」の「ささえあい」に「地域」という言葉を加え、家族等の小さな単位から、地域社会での互助を実現させたいという思いを込めています。

歴代審査員にもお尋ねしてみましたので、ご紹介します。

＜「ささえあい」という命名・ことばのもつイメージについて＞

●人も組織も、支える主体になれるときもあれば、支援を必要とする場合もあります。このささえあい助成は、異なる組織とご一緒に取り組みを進めることで、両方の立場を理解し担うことが可能になると思います。

●改めて考えるのは良いと思います。“お互い様”も少し似ていますかね。

●この場合の「ささえあい」は相互的なものだけではないのではないか、と考えています。むしろ、子ども食堂でほっとした時間を持てた子どもが大きくなって、今度は誰かのためにほっとした時間を提供する、というような恩送り（Pay Foward）の意味あいが強いように思います。ささえあい助成で対象としているような活動のほとんどは、支えられた人が支えてくれた人に直接何かを返す（恩返し､Pay Back）ではなく､遠い先の「恩送り」を信じるものだとも言えます。が、もしかしたら、支える側の人は、そのような「（未来に対する、あるいは人や社会に対する）信頼」というもの自体をすでに返してもらっているのかもしれませんね。共済などでいう「ささえあい」は、もう少し短期的かつ加入者どうしのたすけあい・ささえあい、という意味が強いように思いますので、この点はやや注意が必要かもしれないと思いました。

●補助や依存ではなく、ささえあいという観点では、ささえる・ささえられる二つの関係性は、フレキシブルであり、状況に応じて、ささえる・ささえられるどちら側にもいける、そんな活動が、長く続く持続可能な活動なのだと思います。一方的ではなく、双方向に働きかけることが、ささえあいという言葉にふさわしい活動であると考えます。

●ささえる人､ささえられる人に分かれるのではなく､1 人の人がときには｢ささえ｣ときには｢ささえられる｣人になります。支え、支えられる関係が重なっていくと、地域に「生きる力」があふれてくる、そんな姿が素敵だなと思います。

CO・OP共済　地域ささえあい助成
10年間の活動エピソード作文募集企画

応募期間　2022年6月17日（金）～
1次締め切り：8月31日（水）／2次締め切り：11月30日（水）　各日23:59まで

応募テーマ　**「地域ささえあい助成」らしさを感じたエピソード**をお寄せください。
～当時の活動内容や地域や社会への想い、そして現在の活動のようすなどをお寄せください～

応募資格　「地域ささえあい助成」の助成を受けて取り組まれた活動に参加(*)された方なら、どなたでもご応募いただけます。
(*)過去10年間の活動報告集に掲載のある活動に参加
※ 生協組合員加入有無、CO・OP共済加入有無は問いません。
※ 過去の報告集はCO・OP共済オフィシャルホームページよりご覧ください。
https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/report.html

応募方法　下記URLの専用WEBサイトの応募フォームよりご投稿ください。
https://forms.office.com/r/Y9YgSZSgza

結果発表　2023年6月頃発表予定

入選特典　入選作文は当会の取り組み報告集やCO・OP共済オフィシャルホームページに掲載して、広く社会にご紹介いたします。また、当会の「地域ささえあい助成」団体交流会への傍聴参加権の付与と誕生10周年を迎える当会キャラクターの「コーすけ」ノベルティグッズや「取り組み報告集」「賞状」を進呈することを検討しています。

応募要項

1. 過去10年間の「地域ささえあい助成」の活動にまつわること
2. 「地域ささえあい助成」がキーワードとして使われていること
3. 「生活協同組合」との協働の姿が語られていること
4. ご自身の地域への想いが語られていること
5. 600文字以内であること

上記、5つの要件を全て満たすこと。また、「個人情報の取り扱い」および「応募いただいた作文等の取り扱い」に同意いただけること。詳しくは上記専用WEBサイトの応募フォームにてご確認ください。

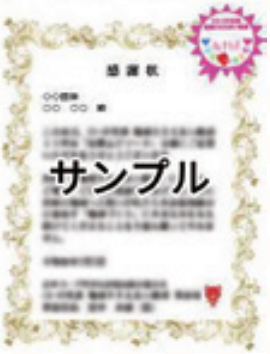
入選者にはコーすけノベルティグッズと賞状をプレゼント！

※ノベルティグッズは一例です。時期により変更となることがありますのでご了承ください。
画像はイメージです。

ばんそうこう

ポケットティッシュ

報告集



表彰状

▶発行元／日本コープ共済生活協同組合連合会　▶問い合わせ先／右記　メールアドレス：contribution@coopkyosai.coop

2022.06.3500

CO･OP共済　地域ささえあい助成
2021 年度　活動報告集

発行日：2022 年 6 月
発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会
総合マネジメント本部　組合員参加推進部
組合員参加・社会貢献活動グループ
地域ささえあい助成事務局
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13
電話　03-6836-1324
メール　contribution@coopkyosai.coop
CO･OP共済オフィシャルホームページ
https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/

CO･OP共済
SNS公式アカウント

facebook フェイスブック

Instagram インスタグラム

LINE ライン

YouTube ユーチューブ

FSC www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C170021

non VOC ink eco UV
この製品はノン VOC インキを使用し、エコ UV 印刷機で印刷しています。

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

（2022．06．3000）